

第四十五回帝國議會
衆議院

刑事訴訟法案(刑事訴訟法案)
陪審法案(委員會會議錄(速記)第八回)

會議

大正十一年三月三日午前十一時七分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 鶴澤 總明君

理事 熊谷 直太君

理事 板野 友造君

理事 成章君

理事 豐光君

理事 井坂 太郎君

理事 原 夫次郎君

理事 森山 儀文治君

理事 横山 勝太郎君

理事 森下 龜三郎君

理事 同月二日委員塚原嘉藤君辭任ニ付其ノ補闕トシテ春日俊文君ヲ、今日委員清瀬一郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ板野友造君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

理事 今三日理事清瀬一郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ板野友造君理事ニ當選セリ

同月二日陪審法案ノ審查ヲ本委員ニ付託セラレタリ

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣 伯傳大木 遠吉君

出席政委員左ノ如シ

法制局長官 横田千之助君

法制局參事官 馬場 鑛一君

司法次官 山内 確三郎君

司法省民事局長 池田寅三郎君

司法省刑事局長 林 賴三郎君

司法省監獄局長 山岡萬之助君

司法省參事官 上基安太郎君

司法省參事官 秋山高三郎君

司法省參事官 清水 行恕君

司法省參事官 岩村 通世君

司法書記官 皆川 治廣君

司法事務官 宮城長五郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

刑事訴訟法案

陪審法案

○勸導委員長 是ヨリ刑事訴訟法案ノ委員會ヲ開キマス、本日ハ豫テ小委員ニ御付託ニナリマシタ後ニ於ケル、小委員會ノ經過ヲ御報告致シタイと思ヒマス、小委員會ハ去ル二月二十日ニ第一回ヲ開キマシテ、逐條審議ニ入ッテ各條毎

ニ質問ヲ致シマシタ、尙ホ小委員以外ノ特別委員ノ方モ、都合ノ附カレタ人ハ御列席ニナリマシテ質問ニ加ハッタノデアリマス、ソレデ第一回ガ二月二十日、第二回ガ二月二十一日、第三回ガ二月二十二日、第四回ガ二月二十五日、第五回ガ二月二十七日、第六回ガ二月二十八日、第七回ガ三月一日、第八回ガ三月二日、斯ウ云フヤウニ昨日ニ至ルマデ八回ノ小委員會ヲ午前午後ニ亘ッテ開キマシタ、ソコデ逐條審議ヲ致シテ、本案六百二十四條ニ至ル迄ノ審議ヲ済マシタノデアリマス、議事ノ詳細ハ速記ニ取ッテアリマスカラ、速記デ御了承ヲ願ヒマスガ、極ク大體ヲ御報告致シマスレバ、特別委員會ニ於テ質問ノアリマシタ點ガ、矢張小委員會デモ重要ナル質問トナッタノデアリマス、其要領ヲ申シマスルト、第二十五條ノ忌避ト、現行法ノ忌避ト異ナリ居ルカ否ヤト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ現行法ト異ナリ居ラナイケドモ、本案ノ方ガ文章ガ優テ居ルト云フ答辯ガアリマシタ、第二十六條ニ於テ横山勝太郎君カラ、本條ノ如キ規定ガ必要デアラカト云フ質問ガアリマシタ、第二十九條ニ於テハ宮古君横山君カラ種々質問ガアリマシタ「訴訟ヲ遅延セムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ト雖モ却下スルコトヲ得ス」トシタ方ガドウカト云フ質問モアリマシタ、第三十條ニ付テハ書ハ必要ガ無カラウト云フヤウナ説モ出マシタ、第三十九條ノ訴訟能力ノ所デ、唯「夫」ト云フ丈デナク「配偶者」ト改メテ、妻ヲモ加ヘル必要ハ無イカ、訴訟能力ノ關係ノミデナク、本案ニ於テ夫ノ權利ヲ認メテ、妻ノ權利ヲ認メナイ部分ガ澤山アル、之ニ對シテ配偶者ト云フコトニ改メル必要ハ無イカト云フコトガ、質問應答セラレタノデアリマス、次ニ重要ナル質問ガ第九十四條ニ付テアリマシタ、人權問題ノヤカマシイ折カラ見マシテ、判事以外ノ者ガ被告人ヲ勾引スルコトハ不當デハナイト云フノデアリマス——横山勝太郎君カラ此點ニ對シテ、承認ガ出來ルネルト云フ程ノ強イ質問ガアッタノデアリマス、ソレカラ第九十六條、此四十八時間ハ長過ぎハシナイカト云フ質問ガアリマシタ、次ハ第一百十條、檢事ニ此權利ヲ與ヘルノハドウカト云フ質問ガアリマシタ、ソレカラ第一百十三條ニ付テ、勾留期間繼續ノ場合ニ於テ、實質上ニ於テハ長キニ涉ル勾留ニナル虞ハアリハシナイカト云フ質問ガアリマシタ、是ハ特別委員會全體ノ會ニ於ケル場合ト殆ド異ナリ居ラヌノデアリマス、第一百二十三條ニ付テモ詳細ナル質問ガ行ハレ、又此條文ハ削ッテハドウカト

云フ意見ガアリ、政府委員ハ極力反對デアルト云フ答辯ガアリマシタ、ソレカラ第五百五十條、第五百五十一條ニ於テ、司法警察官ヲシテ押收搜索ヲ爲サシムルコトヲ得ルト云フ此點ニ付テノ質問、是ハ矢張人權問題カラ見テモ、此規定ハ是ナリニ置クト云フコトハ、適當デアラカドウカト云フヤウナ質問ガアリマシタ、ソレカラ此同條ノ第三項「命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示ス」ヘシ「斯ウアルケレドモ、是ハ職責上當然命令狀ハ示シテハドウデアルカト云フヤウナ質問ガアリマシタ、ソレカラ第一百八十七條ハ是ハ小サイ事デアリマスガ、辯護士ノ外ニ辨護士ト云フモノヲ入レル必要ガナイカト云フ質問ガアリマシタ、政府ハ之ニ付テ相當考慮ヲスルト云フ答辯ガアリマシタ、ソレカラ第二百三十九條ニ於テ「告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得」アル、之ニ對シテ警察官等ニ對シテ賠償規定ガ現行法ニアルガ之ヲ除イタ理由ハドウデアラカ、之ニ對シテハ將來官吏ノ損害賠償ノ責任ト云フコトニ對シテハ司法省ニ於テモ考ヘテ居ル、而シテ此問題ハ純粹ノ民事關係デアラカラ削ッテ居ルケレドモ、將來如何ナル法制ヲ立ツルカト云フコトハ、司法當局ハ研究考慮中デアルト云フ答辯ガアリマシタ、次ニ最モ議論ノ焦點ニナリマシタノガ、第二百五十五條、第二百五十六條、第二百五十七條、即チ此起訴前ノ豫審手續ト云フ事ニ當ルノデアラウト思フノデアリマス、之ニ對シテ檢事ガ搜索ヲ爲スニ付テ、行政處分ヲ必要トスルトキニハ、公訴提起前ニモ抑收、搜索、檢證ガ出來ル、其上ニ此被疑者ノ勾留ガ出來ルト云フ事ニ對シマシテ、大體全體ノ規定ガ起訴前ニ係ル場合ニ、斯ノ如ク行政ノ處分ヲ許スコトハ、甚ダ不當デナイカト云フ質問ガアリマス、之ニ對シテ政府ノ答辯スル所ハ、豫審ノ性質ガ此案ニ於テハ、現行法ニ認メテ居ルノハ趣ヲ異ニシテ居ルノデ、而シテ此豫審ト云フ場合ニ於ケル規定ト對照致シマシテ、起訴前ニ於テモ斯ノ如キ規定ヲ設ケテ置キマセスト、ドウシテモ事實ノ搜索ヲ實行スル上ニ於ケルマシテ不可能デアル、ソレカラ如何ナル場合ニ於テモ檢事ノ請求ガアレバ、豫審判事若クハ所屬裁判所判事ハ、必ズ其請求通りノ處分ヲ執行ヲスルモノデアラカドウカト云フ質問ガアリマシタ、ソレニ對シテ政府ハ、判事ハ公正ナリト考ヘタ場合ニノミ行フノデアリマスカラ、必シモ請求ガアルカラト云ッテ、請求通りニ一カラ十迄ヤルモノデナイト云フ意味ノ法文デアアル、斯ウ云フ答辯ガアリマシタ、尙ホ詳細ハ速記録ニ就テ御

覽ヲ願ヒマス、ソレカラ第一七十四條ノ「檢事ハ告訴人
文ハ告發人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得」ト云フ此
點ニ對シマシテ、是ハ質問ヨリモ反對意見ガアツタノデ
アリマス、ソレカラ第二八十一條ノ規定ニ付キマシテハ
詳細ニ質問ガアリ、又詳細ニ答辯ガアリマシタ、是ハ特別
委員會ニ於テ現レタ所ノ質問及説明ノ要領ト、變テ居ル所
ガ無イノデアリマス、第二八十三條ニ於キマシテハ、四
號ト五號ニ長期十年未滿、長期五年未滿ナルハ、之ヲ
「以下」トシナイノハ何カ間違デナイカト云フ質問ガアリ、
政府委員ノ答辯ハ間違デナイ、無論法文ノ書方トシテハ、
十年未滿五年未滿、斯ウスル方ガ適當デアル、斯ウ云フ答
辯ガアリマシタ、第二九十二條ノ「豫審ノ請求ハ急速
ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ
得」ト云フ此點ニ付キマシテ、口頭ノ中ニ電話ヲ含ムカドウ
カ、或ハ口頭ニ於テ、電話ノ口頭ヲ認メテ居ルカドウカト云フ
質問ガアリマシタ、電話ハ含マヌモノデアル、斯ウ云フ答
辯ガアリマシタ、ソレカラ第三章ノ豫審ノ第二百九十九條ノ
規定ハ、例外デナイカト云フ横山君ノ質問ガアリマシタ、極
ク嚴正ニ言ヘバ、多少例外ニ當ルカ知ラヌト云フヤウナ答
辯ガアリマシタ、ソレカラ第三百二十三條ニ於テ、三日ノ猶
豫期間ハ短クナイカト云フ質問ガアリマシタ、宮古君デ
アツタ思ヒマス、ソレカラ但書ノ「但シ區裁判所ニ在リテハ此
ノ限ニ在ラス」此規定ハ不當デアル、此規定ノミナラズ、是レ
以外ニ區裁判所ニ對シマシテ、其事ノ規定ヲ設ケタル各條ニ
於テ其必要ヲ今日認メナイ、矢張區裁判所ノ手續ヲ、外ノ地
方裁判所ノ手續ト異ニスル理由ガ無カラウト云フ質問ガ澤
山アツタノデアリマス、便宜上此處デ其點ヲ説明致シテ置キ
マス、ソレカラ次に重要ナル質問——矢張最も重要ナル質
問ノ一ツデアルト思ヒマシタ、ガ、第三百四十五條ノ「法
令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限
リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得」此條ハ證據中ノ證據證據、殊ニ
訊問調書ノ效力ヲ規定シタコトニ當ルノデアリマスガ、豫
審等ニ於テ取調ベタ其調書ヲ、公判ニ於テ直ニ證據トスル
ト云フコトノ當否ニ對スル質問デアリマス、政府ニ於テハ、
今日ノ場合此規定ハ最も重要ナルモノデアルト云フ答辯
アリマシタ、ソレカラ「區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ノ規定ス
ル制限ニ依ルコトニ要セス」此點ニ付テハ特ニ斯ノ如キ規
定ヲ置ク必要ハ無カラウト云フ質問ガアリマシタ、ソレカ
ラ第三百五十一條ノ第二項、此規定ハ適用上困難デアルカ
ラ削除シテハドウカト云フ説ガアリマシタ、次に第三百六
十二條、是ハマダ横山君カラ質問ガ保留サレテ居リマスガ
「有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルベキ事實及證據ニ依リ之
ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ」是ハ現行

法第二百三條第一項ノ修正ト見ルカ、然ラバ此規定ニ依ッテ
ドウ云フヤウニ裁判書ヲ書クノカト云フ質問デアリマス、
政府委員ノ答辯ハ第二百三條ノ解釋ニ付テ、果シテ今日ノ
裁判ノ實際ニ於テ多クノ判決ニ採用シテ居ルノガ、正當ノ
解釋カドウカト云フコトハ此所デ説明スル限デナイガ、或
ハ現行法第二百三條ノ解釋ハ、本案ト同様ニ解釋シテ差支
ナイノデナイカト思フ、本案ノ趣旨ハ、罪トナル事實ト證據
ノ間ノ聯絡ヲ明白ニシテ犯罪ノ事實ヲ認ムル以上ハ、其認
ムルニ足ル證據上ノ聯絡ヲ明白ニ判決ノ上ニ現ハス趣旨デ
アルト説明セラレテ居リマス、ソレカラ第三百六十三條、是
ハ非常ニ多クノ質問ガアリマシテ區裁判所ニ於テ特別ノ簡
略ヲ規定ヲ設ケル必要ガ無イデハナイカト云フ質問ガアリ
マシタ、政府ハ區裁判所ノ事件ハ簡略ナル手續ニ依ルノガ
至當デアルト云フ答辯デアリマシタ、第三百六十四條ニ於
テ「犯罪ノ證明ナキトキハ」トアルノハ現行法ノ證據不十分
ヲ修正シタモノデアルカ、或ハ同一デアルカト云フ質問ガ
横山君カラ出マシタ、政府委員ハ現行法ノ證據不十分ハ正
當デナク、又犯罪ノ證明ガ無イノデアアルカ、證明ノ無イト
云フコトヲ以テ、無罪ノ裁判ヲスルガ至當デアルト云フ答
辯デアリマス、次に第四百一條ノ附帶控訴ニ付テ、附帶控訴
ハ獨リ檢事ノミデナク、被告人カラモ出來ルコトニスル必
要ハナイカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府委員
ヨリ、附帶控訴ハ控訴裁判所ノ檢事方行フコトモ本案ハ認
メテ居ル、一審ノ檢事ガ控訴セス、或ハ被告ガ控訴セザルモ
ノニ對シテ、特ニ控訴ニ於テ附帶控訴スル必要ガ無イ、唯タ
控訴ノ檢事ガ適當ナリト認メタ場合ニ附帶控訴ヲスルノデ
アルカラ、ソコデ控訴裁判所ノ檢事ニ限ッタルデアアルト云
フ答辯デアリマシタ、ソレカラ本案ニ於テハ上告ノ規定ニ大
正ヲ加ヘラレテアリマス、第四百十二條ニ付テ種々質
問ガアリマシタ、是ハ各號ニ涉ッテ細カイモノデアリマスガ
、速記録ニ依ッテ御覽ヲ願ヒマス、次に第四百十四條「刑ノ
量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由」ト云フノ
ハドウ云フ事カト云フ質問デアリマス、是ハ誰ガ見テモ不
當デアルト云フノデアアルカ、客觀的ニ不當デアルト云フ
ノデアアルカ、客觀的ニ不當ナリト認メラレト云フ趣旨
デアアル答辯ガアリマシタ、ソレカラ再審ノ事、略式手續ノ
事、裁判ノ執行其他私訴ニ付テモ質問ガアリマシタ、是ハ
速記ニ譲リマス——以上ガ極メテ大體ノ報告デアリマス
ガ、大要是ニテ御了承ヲ願ヒマス

ルカドウカト云フコトヲ御致シマス
○林政府委員 「事實」ノ中ニハ無論犯罪ヲ包含致シマス、
隨テ犯罪ノ存在スルコトハ、證據ニ依ッテ認定シナケ
レバナラヌト云フコトハ疑ナイト思ヒマス
○横山(勝)委員 現行法ノ下ニ於ケル大審院ノ幾多ノ判例
ニ依レバ、犯罪者ノ意思即チ犯罪事實デナイ、ソレハ刑ノ言
渡ヲ爲ス裁判官ノ、絕對ノ自由ニ依ッテ判斷スベキモノデ
アツテ、決シテ證據ヲ要シナイ、又人ノ意思ノ如キハ、證據ニ
依ッテ彼此レ、之ヲ認定スベキモノデナイト云フ意味ノ判例
ガアリマスガ、今政府委員ノ説明ニ依ルト、將來大審院ノ判
例ハ、現行法ノ解釋ヲ誤ラセテ居ルト云フコトニ歸着致シマス
カ、或ハ現行法ニ於ケル從來ノ各裁判所ノ解決、大審院ノ解
釋ハ間違テ居ラスガ、三百三十八條、三百六十一條ノ「事
實」ト云フノハ、現行法ト意味ガ異ナルト了承シテ宜シウ
ゴザイマス
○林政府委員 一般ノ犯罪ニ付テハ、犯罪ノ存在ト云フコ
トハ大切ナル構成要件デアリマス、之ヲ證據ニ依ッテ認
定スルコト云フコトハ、當然ノ事デアルカト考ヘマス、唯タ過失
犯罪アルトカ、特別法ニ於テ犯罪ヲ要シナイ犯罪ハ別デア
リマス、サウ云フ次第デアリマシタ、本案ノ趣意トシテハ、
今御答申シタ事ハ明白ニ疑ナイト考ヘマス、唯タ現行法ノ下
、今御話ノ様ナ判例ガアルカドウカ私ハ記憶シマセマスガ、
私ノ只今ノ記憶ハ無イト思フテ居リマスガ、併シ若シサウ
云フ判例ガアリトスレバ、少クトモ本案ノ趣旨ニハ相副ハ
ヌコトニナリマス
○横山(勝)委員 サウ致シマス、三百三十八條ト、三百六
十二條ニ於ケル「事實」ト云フ中ニハ犯罪ヲ包含スル、即チ
犯罪ハ犯罪ノ構成條件デアルカラ、之ニ對シテ證據ノ説明
ヲスル必要ガアル、斯ノ如キ趣旨デアアルト云フコトハ能ク
了承致シマシタ、ソレカラ進ンデ御致シタイノハ、此三百
六十二條ノ趣旨ハ色々議論ガアリマスガ、要スルニ「聲
明セラレ、所ニ依レバ、誰ガ見テモ證據ト事實ノ連絡ガア
ツテ、一目シテ成程此證據ガアレバ、此事實ヲ認定シテモ宜シ
イト云フ感想ノ起ル程度ニ、證據ト犯罪事實ノ連絡ヲ較
ル事ヲ要スルノデアアル、此意味ハ多少諒解ノ出來ヌ點モア
リマスガ、兎ニ角サウ云フ御言葉ノアツタコトヲ記憶致シテ
居リマス、サウ致シマス、之ニ關聯シテ承リタイノハ、四百
七條ノ規定ニ於テ「控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ
示シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得」斯ウ云フ輕便ナ
ル方法ヲ設ケテ居リマス、此故ニ第二審判決ダケデハ、犯罪
ノ事實モ證據モ分ラヌ場合ガ出來テ參リマス、從來ノ判決
ニ控訴ヲ棄却シタ場合、判決ノ主文ガ分カラヌト云フコ
トデ色々議論ノ起ツタコトモアリマスガ、併ナガラ一審判決

ブ認可シテ控訴棄却ノ裁判ヲスル時分ニハ、理由ノ中ニ原
裁判所ガ言渡シタ主文、即チ刑罰ト云フモノヲ掲ゲテ斯ノ
如ク言渡ラ爲シタノハ相當デアルト云フコトニ依テ、第二
審判決ノ一審判決ヲ認可シテ控訴棄却ト云フコトノ内容ガ
判決自體デ分ル様ニナテ居、是ハ現行法ハ非常ニ便利
デア、所ガ本案ニ於キマシテハ、事實モ判決モ一審判決ノ
通り宜イコト云フコトニナリマス、三百六十二條ノ規定
ニ依テ、一目シテ犯罪事實及證據等ノ連絡ガ明瞭ニナレバ
宜イコト、又左様爲サシムル意思デアルト云フコトノ精神
ニ、矛盾スルヤウニナテ來テ居、裁判官ノ手數ハ非常ニ
省ケマス、ソレヲ御説明ノ趣旨ニ反對シハセスカト思
ヒマス、ソレヲ承リタイ

○林政府委員 成程今御尋ノ如ク、此法文ヲ適用シテ事實
ノ認定證據ノ説明ニ付テ、第一審判決ヲ引用シタル場合ニ
於テハ、第二審ノ判決ノミデハ分ラヌト云フコトニナリマ
セウ、併ナガラ訴訟關係人ハ、第一審ノ判決ノ謬誤ヲ請求ス
ル權利ガアリマス、カラ、之ニ依テ第一審ノ判決ノ謬誤ヲ
實、之ヲ併セテ見ルト、極メテ明瞭ニナルト思ヒマス、故
ニ判決自體ニ依テ明瞭ニナルト云フコトヲ證明シテ趣意
ト相反スルコトニハ至ラヌト考ヘマス

○横山(勝)委員 尙ホ確メテ置キマスガ、サウスルトソレ
ダケデ、此三百六十二條ノ規定ニ副フ譯ニナリマス、カ
○林政府委員 本法案デハ認可ト云フコトハ無イコトニ
ナテ居、ノデアリマスガ、兎ニ角第二審裁判所ニ於テ調ベ
タ結果、事實ノ規定モ第一審判決ノ示シタル所ト全然同一
アル、證據關係モ全然變リガナイト云フヤウナ場合ニ於テ
ハ、事實ニ付テモ、證據ニ付テモ、第一審判決ニ書イテアル
所ヲ其儘引用スル、斯ウ云フ事デ宜シイ、斯ウ云フ趣意デア
リマス

○横山(勝)委員 此三百六十二條ノ第二項デス、犯罪ノ成
立ヲ阻却スベキ事由、又ハ刑ノ加重減免ノ理由タル事實上
ノ主張アリタルトキハ、之ニ對スル判斷ヲ示スト云フコト
ニナテ居、ル條件デアリマス、此中ニ辯護人若クハ被告ノ
側カラ、斯ノ如キ事情ガアルカラ、執行猶豫ヲ與ヘヨト云フ
要求ヲ致シタル場合ニハ、之ニ這入ラスノデアリマス、カ、ソレ
ハ如何デス

○林政府委員 ソレハ第二項ニ這入リマセス

○横山(勝)委員 ソレハ除外シタルハドウ云フ意味デアリ
マス、カ、犯罪ノ成立ニ爭ナキ場合ニ於テハ、多クノ場合、刑
ノ量定執行猶豫ヲスベキカ、否マト云フコトハ一番重要ノ
問題デア、檢察官今日犯罪事件ヲ起訴スルニ當テ、多ク
場合ニ於テ犯罪ノ者ヲ起訴スルコトハ無イ、一應ノ證據取
調ヲ行テ、比較的證據ハ明確デア、多クノ場合ニ於テ、被

告ノ辯解スル所、辯護人ノ努力スル所ハ執行猶豫ト云フ
關係ニ在、ソレヲ省イタルハドウ云フ理由デアリマス、カ
○林政府委員 第二項ニ掲ゲマシタルハ、法律上犯罪ノ成
立ヲ阻却スベキ事由、又ハ刑ノ加重減免ノ理由タル事實上
ノ主張ガアツタ場合デアリマシテ、執行猶豫ノ如キハ、裁判
官ノ要スルニ裁量ノ問題デア、若シソレマデモ一々説明
スルト云フコトニナレバ、刑罰ノ問題、或ハ罰金ニ付テハ刑
量ノ問題、サウ云フヤウナ事ニ付テ主張ガアルト、一々之ニ
對スル判斷ヲ示スコトニナリマス、サウ云フ事ヲ法律上ニ
於テ裁判官ノ義務トスルト云フコトハ、適當デナイト思ヒ
マス

○横山(勝)委員 三百六十二條ノ二項ノ規定ニ依レバ、刑
ノ加重減免ト云フモノ、原因ガアツタ場合ヲ規定シテ居
マス、カ、此加重減免ノ場合ニハ、矢張刑法ノ總則ニアル酌
量減輕等ヲ含ムト致シマス、此事件ニ付テ斯ノ如キ酌量減
刑ノ事情ガアルト云フコトデ、執行猶豫ヲスベキカドウカ
ト云フコト、殆ド違ガナイト思フ、即チ本案ノ趣旨ガ、酌量
減輕ノ場合モ矢張判斷セヨト云フ執行猶豫ノ規定ヲ置コ
トハ甚ダ不都合デアルト思フ、酌量減輕ノ場合ヲ比較シ
テ御説明ヲ願ヒタイ

○林政府委員 第二項ハ酌量減輕ヲ包含致シマセス、酌量
減輕ハ裁判上ノ減輕デアリマシテ、第二項ノ豫想スル所ハ
法律上ノ減輕デアリマス、若シ御説ノヤウニナリマス、檢
事ハ此事件ニ付テハ刑ハ何年ガ宜シイ、辯護人ハ何年位デ
宜シイト云フヤウナ主張スル場合ニ、一々判斷ヲシタコ
トヲ判決ニ示スト云フコトニナリ、實際上ニ於テ行ハレヌ
コト、思ヒマス

○横山(勝)委員 サウスルト第二項ノ意味ヲ私誤解シテ居
リマシタガ、第二項「法律上」ト云フ此三字ハ「犯罪ノ成立
ヲ阻却スベキ事由」ト云フノニ係ルノデナクシテ、「又ハ刑
ノ加重減免ノ理由タル事實上ノ主張アリタルトキ」ト云フ
ノ「法律上」ト云フ事ガ係ルノデアリマス、カ

○林政府委員 御尋ノ通りデアリマス

○横山(勝)委員 然ラバ酌量減輕等ノ場合ヲ除外シタルハ、
矢張今御説明ノ執行猶豫ノ場合ヲ除外シタルト同様デア
ト諒承シテ宜シウゴザイマス、カ

○林政府委員 大體同ジヤウナ理由デアリマス

○横山(勝)委員 サウスルト是ハ第二項ハ私ハ一瞥シテ洵
ニ結構ナ法律デ、從來民間ニ於テ稱ヘラレテ居タ事項ヲ御
採用ニナタモノトシテ、非常ニ喜ンデ居、即チ辯護士協
會等ノ希望ニ依レバ、爭點ヲ掲ゲテ爭點ノ判斷ヲシテ貫ヒ
タイト云フコトモ、此現行法ノ第二百三條ノ改正ニ關スル

場合ノ要求ノ一ツデア、タ、云フノハドウ云フ事カト云フ
ト、ソレハ犯罪ノ成立ヲ阻却スベキ場合モアリマス、ケレド
モ、多クハ斯ノ如キ事情ニ依テ此刑ハ輕クスベキモノデ
アル、斯ノ如キ事情ニ依テ此刑ハ大ニ減ゼラルベキモノデ
アル、若クハ執行猶豫ヲ與フベキモノデアルト云フコトマ
デ含メテ、吾々ハ一ツノ爭點トシテ判斷ヲシテ貫フコト云フ
意味デア、サウスルト單ニ法律上當然犯罪ノ成立ヲ阻却
シ、若クハ法律上當然加重減免ノ事情アリト見テ判斷シテ
貫タ貫ハナイト云フコトハ大シタ被告ノ利益ハ無イノデ
アリマス、カ、議論ハ別トシテ、甚ダ不完全ナル法律デア
ト思フ、其點ハ如何デアリマス

○林政府委員 第二項ハ前段ニ於テハ犯罪ノ成立ヲ阻却ス
ベキ原因ノ主張ガアレバ、之ニ付テ一々判斷ヲスルト云フ
コトニナテ居リマス、ノデ、現行法並ニ現行法ノ下ニ行ハレ
テ居、實際ノ違リ方ニ比較スルト、非常ニ違デアリマス、又
後段モ同様デアリマシテ、現行法ノ下ニ於テハ、法律上刑ノ
加重減免ノ理由タル事實上ノ主張ガアツテモ、必シモ之ヲ一
々判斷スルコトハ必要デア、ノデアリマス、カ、非常ニ現
行法ト違ガアルト、第二項ハ役ニ立タヌト云フコトデアリマ
ス、非常ニ役ニ立ツ考デアリマス、先程モ申シタヤウニ刑
期ノ問題デア、ルコトカ、其他裁判官ノ裁量ニ屬スベキ問題ニ
付テ、一々之ヲ書クト云フコトハ是ハ到底行ハレヌト思ヒ
マス、ソレデアリマス、カ、此範圍ニ止メルノガ實際上適當
デアルト考ヘテ居リマス

○横山(勝)委員 併ナガラ被告並ニ辯護人カラ、此事件ハ
斯ノ如キ事情ガアルカラシテ、酌量減輕ヲ與ヘテ貫ヒタイ、
若クハ執行猶豫ヲシテ貫ヒタイト云フコトヲ請求シテモ、
ソレヲ判決ニ書クノハ困難デア、ルコト仰シタル、併ナガラ事
實裁判官ハ審理ノ際ニ左様ナ評議ヲシテ、アノ要求ハ不當
デア、ル、アノ請求ハ正當デア、ルト云フ判斷ヲ爲サレルト云
フコトハ、檢察官ノ要求ノアツタ場合デモ、サウデアラウト思
フ、既ニ裁判官ガ單獨ニ判斷シ、若クハ合議ノ上ニ於テ其
事情ガ被告ニ有利トカ無イトカ、云フコトヲ文書ノ上ニ書
クコトハ、易々タルモノデア、ラウト思フ

○林政府委員 ソコハドウモ御話ノヤウニ私ハ參ラスト思
ヒマス、例ヘバ刑罰ヲ判斷スル場合ニ於テハ、諸般ノ點カラ
十分ニ考究シテ定メルノデアリマス、定メタルハ理由ガアル
、併ナガラ法定刑ガ一箇月以上十箇年ニナテ居、ル場合
ニ、六ヶ月ニ定メルトカ一年ニ定メルトカ、二年ニ定メルト
カ云フ場合ニ、何故ニサウ定メタル、或ハ一年八ヶ月デハ何故
惡イニ一年トシタルハドウ云フ譯ダ、云フ様ナ事ヲ文書ニ
現シテ、人ヲシテ諒解セシメル程度ニ説明スルト云フコト
ハ困難デアリマス、困難ト云フヨリモ寧ロ不能ニ歸スルカ

ト考ヘマス、サウ云フコトデアリマスカラ、裁判官ノ義務トシテ命ズルコトハ、實際上適當デナイト考ヘマス

○横山(勝)委員 サウスルト只今ノ事項ヲ四百十四條ト關聯シテ御尋シマシガ、四百十四條ハ大審院ノ第二審ノ判決ガ、刑ノ量定ガ甚シク不當ナリト思料スベキ顯著ナル事由アルトキハ、之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ト云フ、即チ刑ノ量定ガ甚シク不當ナル場合ニ於テハ、大審院ニ於テ之ヲ論争スル途ヲ開カナレバナラス、此故ニ原審ノ判決ニ斯ノ如キ事情ガアル、斯ノ如キ原由ガアルト主張シテ刑ノ酌量減刑ヲ求メ、或ハ執行猶豫ヲ求メタ場合ニ、ソレハ斯ウ云フ事情ニ依ッテ、其請求ハ承認シナイト云フ事ノ判斷ガ若シ現レテアルトスレバ、此四百十四條ヲ活用スル上ニ於テ、非常ニ便利デアラウト思フ、若シソレガ無イト、上告審ニ被告辯護人ノ側カラ執行猶豫ノ事情ヲ主張シテモ、裁判官ハ斟酌シナカッタ、執行猶豫ヲ與ヘナカッタ場合ニ法律上特殊ノ判斷權ヲ認ムルナラバ、矢張四百十四條ヲ活用セシムル上ニ、今私ノ申上ケルヤウナ事ヲ書加ヘタ方ガ便利デアラウト思フ、又サウナレバ、上告制度ニ非常ナル改善ヲ加ヘタ趣旨ヲ徹底スルコトガ出來ナイト考ヘマス、此四百十四條ニ關係シテ御答辯ヲ願ッテ置キマス

○林政府委員 四百十四條ニ依ッテ上告スル場合ニ於テハ、判決ニ現レタル事ノミナラズ、訴訟記録ニ現ハレテ居ル事ハ、之ヲ上告趣意トシテ提出スルコトガ出來ルコトニナッテ居リマス、ソレデアリマスカラ上告裁判所ハ之ニ依ッテ原判決ガ正當カドウカト云フ事ヲ判斷スルコトハ出來ルト思フ、詰リ判決ニ書現スコトハ困難デアルガ、併ナガラ訴訟記録ヲ見レバ善イカ惡イカト云フコトハ分ルノデ、強テ困難ナル、或ハ殆ド不能ニ迄イヤウナ事ヲ法律ニ定メルト云フコトハ、ドウモ實際上適當デナイト思ヒマス

○横山(勝)委員 サウスレバ斯ウ云フコトヲ御認メニナリマスカ、酌量減刑、或ハ執行猶豫ヲ與フベキ事情ガ被告辯護人側ヨリ有リトシ、裁判官ノ側ニ於テ無イト判斷スル場合ニ、之ヲ上告審ニ於テ上告スルト假定シテ、上告裁判所カラ見マシテ、此被告竝ニ辯護人側ノ要求ニ對シテ、判事ハ如何ナル理由ヲ以テ之ヲ否認シタカト云フコトガ現レテ居ル方ガ、大審院ニ於テハ非常ニ便宜ヲ感ズルコトガ無イト御認メニナリマスカ

○林政府委員 單ニソレダケノ問題トスレバ、便宜ヲ感ズルデアラウト思ヒマス、併ナガラソレガ爲ニ常ニ之ヲ現サナケレバナラヌト云フコトハ、實際上適當デナイト考ヘマス

○横山(勝)委員 ソレカラ三百六十二條ノ第二項「犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ」場合ニハ、上告ノ理由ニナリマスカ

○林政府委員 上告ノ理由ニナルト云フコトハ明文デ示シテアリマス

○横山(勝)委員 ソレハ何所デスカ

○林政府委員 四百十二條——昨日横山君ノ御尋ニナッテ條項デス

○横山(勝)委員 分リマシタ、ソレカラモウ一ツ進ンデ三百六十二條ニ付テ今鈴木君カラ御尋シタイ事ガアルサウデスカラ、ソレヲ承テ後、最後ニ一寸言ヒタイ事ガアリマスカラ留保シテ置イテ、三百六十三條ニ付テ御尋致シマス、三百六十三條ハ、區裁判ニ於テ輕微ナル判決ヲ爲ス時分ニハ、事實證據ヲ示セバソレデ宜シノデ、三百六十二條ノ第一項トハ異ナッテ居ルノデアリマス、ソレハ昨日ノ説明ニ依ッテ諒解致シテ居リマスガ、區裁判所ノ判決ニ對シテ地方裁判所ニ控訴シタル場合ニ、其地方裁判所ハ三百六十二條ノ原則ニ依ッテ、罪トナル事實及證據ハ、矢張區裁判所デ決定審理シタモノハ、地方裁判所デ矢張審理スルニハ三百六十三條ノ規定ニ依ッテスルノデアリマスガ、詰リ區裁判所カラ事件ガ地方裁判所ニ移轉シタ場合ノ適用ヲ承リタイ

○林政府委員 今御尋ノ場合ニ於テ、地方裁判所ニ於テ控訴審ノ審理ヲ致シマシテ、其結果禁錮一年以下ノ刑ノ言渡フスル、或ハ刑ノ免除ノ言渡フスル場合ニ於キマシテモ同様デアルト考ヘマス

○横山(勝)委員 一寸諒解出來マセヌカラ、モウ少シ詳シク——私ノ申シタノハ區裁判所デヤルトキハ、證據サハ舉ゲレバソレデ宜シイ、其事件ガ地方裁判所ヘ行ッたらバ、地方裁判所モ其通りデ宜イカドウ云フコトニナリマスカ、其意味デアリマス

○鈴木委員 今ノ三百六十二條ニ關聯シテ一寸御尋致シマス、是ハ妙ナ質問デアリマスカレドモ、心得ノ爲ニ伺ッテ置クノデアリマス、三百六十二條ニ「有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルベキ事實及證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ」云々、斯ウ書イデアリマスカ、此罪トナルベキ事實及證據ニ依リテ之ヲ認メルコトハ、之ヲ裁判ト看做シマスカ如何デアリマスカ

○林政府委員 是ハ色々議論ガアルヤウデアリマスカ、私ハ裁判デアラウト考ヘマス

○鈴木委員 裁判デアル——洵ニ満足致シマシタ

○鈴木委員 第三百四十五條デアリマスカ「被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得」此ニハ豫審若クハ豫審前ノ檢證調書ガ矢張含ンデ居ルモノデスカ、ソレハ全然公判デ調ベナケレバナラヌ意味ニナリマスカ、訊問調書ノ中ニハ這入ラスカト思ヒマス

ガ、ソレハドウ云フモノデアリマスカ

○林政府委員 三百四十五條ニ規定シマシタノハ、訊問調書ニ關スル事デアリマシテ、隨テ檢證調書ノ如キハ此法令ニハ關係ガ無イ、其結果檢證調書ガ證據トナルノデス

○鈴木委員 ソレハ根據ハ何處カラ來マスカ、例ヘバ豫審ニ於テ檢證シタ檢證調書ニスル事ガ出來ルト云フノデスカ

○林政府委員 檢證調書ハ適法ナル手續ヲ以テ作成サレタ、刑事訴訟法上ノ書類デアリマスカラ、特ニ制限ガ無イ以上ハ、證據力ヲ持ツト云フ事ハ一般ノ原則カラ考ヘラレマス

○鈴木委員 一般ノ原則ト申シマス、豫審前ニ若シ法令ニ依ッテ檢證スルコトガ出來ルカドウカ、ソレガ證據ニナリマスカ

○林政府委員 法令ノ許ス場合ニ於テ、法令ノ定メタ手續ニ從ッテ行ッテ檢證ノ調書デアリマスカレバ、矢張證據力ヲ有スルコトニナリマス

○鈴木委員 ソレハ法文ノ根據ガアリマスカ

○林政府委員 ソレハ檢證調書ニ付テサウ云フ場合ニ證據力ガアルト云フ直接ノ規定ハアリマセヌガ、一般ノ原則ニ於テ其點ハ疑ナイト考ヘマス

○横山(勝)委員 餘リ諄イヤウデアリマスカ、三百六十二條ハ後日非常ニ紛争ガ起ルト私ハ今カラ想像スルニ難カラス、ソレデ此第十三議會ノ際ニ之ヲ改正セラレタル沿革、ソレカラ現行法ノ如クナッテカラ色々裁制ニ起ッテ實例、ソレカラ今日ノ大審院ノ判例、ソレカラ第四十四議會ニ於テ原夫次郎君等カラ御提出ニナッテ改正案、是等ノ沿革ニ徴シマスルト云フト、司法當局モ餘程若心ニナッテ居ル條文ノコトデアルカラ、御苦心ニナレバナルダケ後日紛争ヲ起スモノデ、此法條ノ適用ニ付テハ、司法當局ノ眞意ト云フモノハ、今日ノ如キ判決書ヲ書カセテハ、裁判官ノ非常ナル心勞ヲ贏チ得ルノミデアッテ、非常ナル裁判官ノ能率ヲ減少スル、此故ニ徒ニ多數ノ證據ヲ羅列スルコト云フ事ハ、毫モ必要ノナイ事デアルカラシテ、モット判決ヲ簡單ニ明瞭ニ行キマスヤウニシタイ、斯ウ云フ意味デアラウト思ヒマス、ソレニハ吾々モ異ナハ無イ、吾々モサウシタイト考ヘテ居リマス、所ガソレヲ現實ニ全國ノ裁判所ヲ通ジテ、幾千萬ノ事件ニ之ヲ現スニ當テハドウ云フコトニナルカト云ヒマス、ソレガ亦行ハレナイ、即チ現行法ノ二百三條ヲ御改正ニナル當時ノ努力ト云フモノハ、ソコニ在ッタンデアリマスカレドモ、併シ是ハ昨日モ申上ゲタヤウニ、其檢事ハ此改正ハ出來損ヒノ改正デアルト言ハレタ程ノ法律ニナッテシマッタ、豐島政府委員ガ四十四議會ニ於テ説明ラサレタ所モ其通りデアル、現行法ノ二百三條ノ意味ハ、今日裁判官ノ解釋シテ居ルヤウナモノデアイト云フコトヲ屢々聲明セラレテ

居ル、本案ハ三百六十二條ノ第一項ノ中ノ政府委員ノ説明モサウダラウト思ヒマス、併ナガラハ後ニ至ッテ、或ハ之ガ爲ニ上告ノ理由ニモナリマセウシ、又見様ニ依ッテハ、人權ヲ蹂躪セラレト論ズル人モアラウト思ヒマス、其際ニ於ケル私ハ資料トシテ、豊島政府委員ノ仰シヤツタ所ノ要點ダケヲ茲ニ述ベテ置キマス、ソレヲ參照ニシテ、サウシテ或ハ裁判官ニ訓示ヲ爲サルトカ、或ハ此三百六十二條ノ運用ニ關シテ命令トカ、訓令ヲ御示シタル所ノ資料ニ供セラレ、而シテ四十四議會ノ説明ト四十五議會ノ資料トガ、撞着矛盾スルヤウナコトノ無イヤウニ致シテ置キタイト思ヒマス、是モ必要デナイト思召ス諸君モアルカ知レマセウガ、併ナガラ私ハ最重要ナル本案ノ運用ニ關シテ非常ニ憂慮シテ居リマスカラ、其要點ダケヲ讀シテ置キマス、第四十四議會ニ於テ刑事訴訟法改正法案ヲ提出セラレタル委員會ニ於テ、豊島政府委員ハ斯様ニ申サレテ居ル、曰ク「此度民間法曹ノ多數ノ御方ヨリ此案ヲ提出セラレ、又御賛成ニモナッテ居ルト云フコトハ大變喜バシイ次第デアリマス、此案ハ既ニ法律取調委員會ノ主査會ニ於テ決議サレマシタ所ノ案ニモ同様ナコトニナッテ居リマシテ、兎ニ角判決ニ證據ノ内容ヲ一々示スト云フコトヲ省クコトニ付テハ其當時決議サレテ居リマシタ、司法當局ニ於テモ斯クアランコトヲ希望シテ居リマシタ所デアリマス（中略）斯ノ如キ何人モ疑ナク弊ノアル所ヲ認メテ居ルヤウナ點ニ付テハ、全體ノ改正ニ先ダッテ改正ヲシテモ、決シテ不當ナ事デハナイト存ジマス」ソレカラ又豊島政府委員ハ曰ク「此現行法ガ明治三十二年ニ改正ニナリマシタ當時、此改正ノ趣意ト云フモノガ今日判決例ヲ認メラレテ、居ル通りノ趣意デ改正ニナツタノデアルカト云フコトヲ考ヘテ見マスルト、決シテサウデハナイ（中略）其判決例ガ一旦出來タ以後ハ、今日ノ判決ノ狀態ト云フモノガ唯タ豫審調書ト同ジヤウナ事ヲ羅列スルコトニ止マリ、唯タ大ナ判決ヲ書クダケノ話何ノ役ニハ立たヌ、ソレガ爲ニ決シテ心證ニ依ッテ基イテ居ル所ガ、判決ノ上ニ現レテ居ルトハナッテ居リマセウ、今日裁判官ノ苦シデ居ルト云フノハ、機械的ノ例ヲスルコトニ苦シデ居ル、無駄ナ時間ヲ費ス事ニ苦シデ居ル、唯タ豫審調書ヲ引寫スル爲ニ非常ニ時間ガ掛ルト云フヤウナ事デ、心證ノ判決ニ現スト云フコトハ出來ナイ（中略）今日唯タ豫審調書ニアルヤウナ内容ヲ羅列シテ、事情ヲ綜合考覈シテ之ヲ認メルト云フ判決ノ立方ハソレハドウモ十分デハナイ、證人ノ證言デモ内容ヲ示サシテ其人ニ信ヲ置ケレバ、其内容ヲ敢テ明實ニ書カナイデモ、豫審調書ニアルノデ明白ダラウト思フ（中略）唯タ證據ノ内容ヲ羅列スルト云フ様ナ趣意デナクシテ、心證ニ基イタ所ヲ判決ニ現スト云フ趣意ニナルダラ

ウト思ヒマス、苟モ諸般ノ微憑カラシテ之ヲ認メナケレバ其微憑事實ト云フモノヲ舉ゲテ、犯罪事實ヲ認メル所ノ推理作用ニスルト云フコトヲ説明シナケレバナルマイト思ヒマス（中略）今日ノ如クドウモ判決ノ内容ニ於テ證據ノ内容ヲ掲ゲナケレバナラヌト云フコトニナリマス、所謂證據ノ證據ト云フコトガ餘計ニナッテ、ソレガ爲ニ判決ノ破毀サレルト云フコトガ非常ニ餘計アル、是ハ甚ダ司法ノ狀態ニ於テ思ムベキ事デアアル、決シテ人權擁護ニハナラナイ（豊嶋政府委員ハ又申サレテ居リマス、曰ク「只今申シマス如ク三十二年ニ改正シタルキノ理由ハ、心證ノ基ク所ヲ判決ニ示スニ在ルト思ヒマス、此改正以前ノ狀態ハ横山君モ御承知ノ通りト存ジマスガ、犯罪ノ構成事業ヲ書イテ、其後ニ證人何某ノ證言ニ依ッテ以下ノ事實ヲ認定スルト云フコトヲ書クダケデ、證據ノ理由ト云フモノハ唯タ證人ノ名前ダケヲ列舉シタル云フ狀態デアッタ、ソレガイケナイノデアリマス、併シソレハ決シテ證言ノ内容ヲ書ケト云フ改正デハナナカッタノデ、先程申シマス様ニ或ル證人ノ證言ガ信用スベシトスレバ、其證據事實ヲ示シテ、犯罪事實ヲ推理スル働ヲ判決ニ現スト云フ趣意デアッタラウト思ヒマス、唯タ内容ダケ示シテ置イテ、ソレデ足リルト云フ考デハナカッタ、内容ハ示サナクテモ宜シイノデ、心證ノ基ク所ヲ示セバ宜イト云フ考デアッタト思ヒマス、三十二年ノ改正前ノ如ク、證人ノ名前ダケ書ケバ宜イト云フ考デハナイト思ヒマスカラ、此案ノ通りニナレバ三十二年ニ於テ改正ヲ企テラレタ趣意モ貫ク事ト存ジマス」モウ一點アリマス、豊島政府委員曰ク「唯タ直接證據ノ無イ場合ニハ、今日ハ色々ナ證言ヲ羅列シテ綜合考覈スルト云フコトニ依ッテ認定スルガ、何ガドノ證據ニナッテ來ルカト云フコトハハツパリ分リハシナイ、此人ガ人違デアルト云フ證據ガ何所ニアルカ分ラナイ、又犯罪構成ノ事實ニナル證據ト云フモノハ何所ニアルカ分ラヌ、サババ其說明ニ付イテ居ナイ、ソナナ事デハイカスノデ、間接證據ノミノ場合ヲ御考ヲ願ヒタイ」斯ウ云フ事ヲ縷々述ベラレテ居リマス、是ハ大體ヲ私ハ朗讀シタルデアリマスガ、要スルニ豊島政府委員ノ説明ノ趣旨ハ、證據ノ内容ハ示サナクテモ宜シイノデアアル、甚シキ場所ニ至ッテハ、其證人サヘ信用ガアレバ、其證據ハ採テ宜シイノデアアル、併シ其證據ト事實トガドウシテ聯絡スルカト云フ心證ノ由テ起ルコトヲ書ケ、而シテソレハ直接證據ノ場合ニハ一瞥シテ足ルコトデアアル、十圓二十圓ノ竊盜事件ガアッタ場合、之ニ吻合スル證人ノ供述ガアレバ、ソレヲ眺メタダケデ直グ分ル場合ガアルケレドモ、併ナガラ間接證據ノ場合ニハ、矢張間接證據ト認定シタル事實トノ間ノ聯絡ヲサセナケレバナラヌト云フコトヲ述ベテ居ラレル、詳シイ事ハ只今讀上

グタ所ヲ御一讀ヲ願ヒタイ、先程來ノ政府委員ノ御説明モ、恐ラク言葉ハ多少違ッテ居リマスルケレドモ、此意味ニ外ナラナイト思ヒマス、大體ノ意味ハ斯様ナ言葉ノ趣意デアアラウト思フ、果シテサウデアアルカドウカ、サウ致シマスルト此三百六十二條ノ適用ニ依ッテ、政府委員ハ從來ノ如ク證據ノ内容ヲ示サナイデ、ソレデ足リルト云フコトヲ御考ヲ以テ、此立法ヲ爲サレタノデアアルカト云フコトヲ次ニ伺フ、テ置カナケレバナラヌ、ソレカラ昨日來ノ御説明ノ趣旨ヲ、私ノ記憶スル所ニ依リマスレバ、證據ノ内容ヲ示ス場合モアル、併ナガラ絕對ニ證據ノ内容ヲ示サナケレバナラヌト云フ理由ハ無イ、ト云フ御答ヲ得テ居ルヤウニ記憶シテ居リマス、果シテサウ云フ事デアリマスルカドウカ、尙ホ只今申シマシタ豊島政府委員ノ御辯明ヲ根據トシテ、後日三百六十二條ノ適用ニ對シテ、民間ノ者若クハ裁判官ガ便利ヲ得ルト思考セラレ、事情ガアリマスルナラバ、特ニ之ヲ承テ置キマス

○林政府委員 三百六十二條ノ意義及根本ノ精神ハ、屢々申上タル通りデアリマシテ、今御讀ミニナツタ豊島君ノ前議會ニ於ケル説明モ、只今承ル所ニ依リマス、大體ニ於テハ違ガ無イト考ヘマスガ、併ナガラ細イ點、若クハ個々ノ適用ノ事柄ニ付キマシテハ、今ノ説明ノ分ヲ熟讀觀味シタル上デナイト、判斷シタ御答ヲ致ス譯ニハ行キマセウ、ソレカラ第二ノ御尋ニ付テハ屢々申シマスル如ク、認定シタル事實ト證據ト聯絡ヲ明ニシテ、通常ノ理解力ヲ有スル者ヲシテ、如何ナル關係カラ認定ガ出來タカト云フコトヲ諒解スルノ程度ニ、明ニスルノガ必要デアリマスカラ、大體ノ場合ニハ證據ノ内容ヲ記サナケレバ、實際ニ於テ連絡ガ分ラヌト思ヒマス、故ニ實際ニ於テ證據ノ内容ヲ或ル程度マデ書クコトニモナリマセウガ、法律ハ必ず要求スル譯デハナイ、簡單ナル事件デ書カヌデモ分ル場合ニハ宜シイト云フ意味デアリマス、ソレニ依ッテ御諒承ヲ願ヒマス

○森下委員 事實ノ真相ヲ判明スルコトニ付テ、特別規定ノ三百四十一條ニ付テ、第四回ノ委員會ニ於テ政府委員ニ御尋致シマシタガ、共同被告人若ハ證人等ヲ調ベル時ニ、事實ノ真相ヲ陳述スル機會ヲ捉ヘル爲ニ、被告人ニ對シテ退延ノ命ズル規定ガアリマス、私ハソレニ對シテ、サウ云フ意味ニ於テ被告人ヲ退延セシムルト同様ニ傍聽人ノ或者ヲ退延セシムルト云フコトニ付テ、特別規定ヲ設ケラル、必要ナキカト云フ意見ヲ持ッテ居リマス、即チ被告人ト後ロニ控ベテ居ル傍聽人トノ特殊ノ身分關係、若クハ利害關係ヲ有スル場合ニ於テ、後ロニ控ヘテ居ル傍聽人トノ關係上、實際ノ事實ヲ陳述スルコトガ出來ヌト云フ場合アルコトヲ、常ニ吾々ハ實務ヲ執ル上ニ於テ遺憾ヲ感ジテ居ル次

第アアリマス、ソレニ對シテ林政府委員ハ、サウ云フ特別關係ノアル場合ニ於テハ、裁判長ハ法廷警察權ニ依リテ傍聽人ニ退廷ヲ命ズルコトガ出來ルカラ、ソレデ宜シイデハナイカト云フ御答辯デアッタノデアリマスケレドモ、裁判長ノ法廷内ニ於ケル秩序維持權、若シハ法廷警察權ハ、既ニ形ノ上ニ現レタル秩序破壊ノ行為ニ出デタ場合ニノミ適用サレルノデアリマシテ、親分乾兒ノ關係、若クハ金貸ト金ヲ借りテ居ル人間トノ關係、若クハ親族關係ト云フヤウナ特殊ノ關係ノ者ガ後ロニ控ヘテ居ル爲ニ、其後ロニ控ヘテ居ル者ニ利害關係ヲ及ボスト云フ關係上眞ノ陳述ヲシヤウニモスルコトガ出來スト云フ場合ガ屢々アル、サウ云フ場合ニ、如何ニシテ裁判長ガ法廷ノ秩序警察權ノ行使ヲ爲スカト云フコトハ、想像ノ出來ナイ事デアリマスガ、私ハ此場合ヲ想像致シマスルト、傍聽人タル一部ノ者モ退廷セシムルコトノ出來ル、特別規定ヲ必要トスルト云フコトヲ痛切ニ感ジマスルノデアリマスガ、前會ノ政府委員ノ御説明ハ、私ノ間ニ對シテ能ク分リマセヌガ、私ノ意見ニ御同意下サルコトヲ希望致シマス

○林政府委員 只今ノ御尋ノヤウナ事實ガ頻繁ニアルト致マスレバ、ソレニ付テ特別ノ規定ヲ設ケルノモ一ツノ考デアルト存ジマスルガ、當局ノ見ル所ニ依ルニ、法廷警察權ノ運用ニ於テ、實際多クノ差支ヲ生ジナイト云フ考ヲ持ッテ居リマス、今御話ノヤウナ場合ニ、親分ナリ何ナリ傍聽席ニ控ヘテ居ッテ、肩ヲ聲カシテ居ッテ、被告人ガ見レバ睨付ケルト云フコトガアレバ、法廷警察權デ退廷ヲ命ゼラレラレトデアリマスガ、大概サウ云フヤウナ事柄ニナルデアラウト思ヒマス、而シテ實際ニ於テ現行ノ構成法ノ運用デ旨ク行クコト、考ヘテ居リマス

○森下委員 私人申シタ中ニ、後ロニ控ヘテ居ル者ガ睨ンデ居ルト申シタノデ、其言葉尻ガ形ニ現レタヤウニ政府委員ガ御聽取ニナツタカ分リマセヌガ、私ハ後ロニ控ヘテ居ル者ガ、親分乾兒ノ關係、家主ト借家人ノ關係、若クハ親族關係等ノアル者ガ後ロニ控ヘテ居ルト、供述ヲ爲ス者ノ心理狀態ガ、後ロカラ睨ミラカシテ居ルカラト云フコトヲ形容シテ申サゲタノデアリマス、斯ウ云フ場合ニ如何ニシテ法廷ノ秩序維持權ノ行使ガ出來マスカ、斯ウ云フ事ヲ想像スレバ、裁判所構成法ノ適用ヲスル場合ガ無いと思ヒマス

○林政府委員 只今ノヤウナ場合ニ付キマシテハ、十分考慮スル必要ガアルト思ヒマスガ、併シ傍聽人ヲ退廷セシムルト云フコトハ、今日ノ法律ノ立前カラ云フト、構成法ノ關係ニナルト思ヒマス、刑事訴訟法ノ中ニ入ルベキ規定デ無イヤウニ思ヒマス、此問題ハ考慮スルコトニ致シマシテ、刑事訴訟法トハ關係ノ無イヤウニ致シタイト思ヒマス

○森下委員 今政府委員ノ御説明ニ、構成法ノ規定ダト云フ事デアリマスガ、傍聽ヲ全部禁ズル、サウ云フコトデナク或ル特殊關係ノ者ニ對シテ退廷ヲ命ズルト云フ場合ニハ、必シモ構成法ニ依ルモノデナイト思フ、裁判所構成法ニ依レバ、裁判所ノ構成ヲ爲スベキ機關ト云フモノハ、其機關ニ關スル規定ハアルデアリマセウケレドモ、傍聽人ニモ一部ノ退廷ヲ命ズルト云フコトハ、何モ構成法ノ管轄ニ屬スルモノデナイト思フ、是ハ意見ノ相違ト御考ニナルカ知レマセヌガ、率直ニ考ヘテ刑事訴訟法ノ規定ニ屬スベキモノト思フ、既ニ刑事訴訟法ノ規定ニ屬スベキモノトスルナラバ、大ニ考慮スベキ事實ガアルト云フ御意見ヲ拜聽致シマシタ以上ハ、茲ニ又被告人ノ退廷ト云フコトガアル意味ニ於テ、傍聽人ニ對シテ二ノ者ヲ退廷ヲ命ズルト云フコトヲ附加ヘルト云フコトハ、之ニ同意下サツデモ何等差支ナイト思フノデアリマス

○林政府委員 御承知ノ通り現行ノ構成法ト刑事訴訟法ト何所ニ規定スベキ事項ノ分界ヲ取ッテ居ルカト云フト構成法ノ方ハ裁判所ノ構成其モノニ付テ規定ノミデアリマセヌ、事物ノ管轄ノ事ハ、全部構成法ニ原則ノミデアリマセヌ、ソレカラ裁判ノ公開實行ト云フヤウナ事モ構成法ニ書イテアレマス、ソレカラ傍聽人ガ不當ノ言動ヲスルトカ、或ハ相當ノ衣服ヲ纏ハストカ云フヤウナ場合ニ、法廷警察權デ退廷ヲ命ズルヤウナ場合モ構成法ニ書イテアレマス、左様ナ立前カラ申スト、傍聽人ヲ退廷スベキ理由ヲ擴張シマスコトデスカラ矢張現行法ノ立前ヲ襲踏シマスレバ、構成法ニ行クノガ相當デアルト思フ、理論トシテハ今言ハレタ御話ニ付テ、別ニ意見ヲ持ッテ居ルノデアリマセヌ、現行法ノ立前ガサウナテ居ルカラ、此立前ヲ破壞スル必要ハ無い、構成法ノ方ニ讓ル方ガ宜シクハナイカト斯ウ云フコトヲ申サゲタノデアリマス

○森下委員 此上ハ意見ノ相違デアリマス、兎ニ角私ノ憂フルノハ事實ノ眞相ヲ闡明スルニ、成ベク適當ナ方法ヲ完備セシメタイト云フ考デアリマスガ、ソレニ對シテ政府委員ガ相當考慮ヲ運シテ下サルト云フナラバ満足致シマス

○府委員 私人先ノ質問ハマダ諒解致シマセヌガ、三百四十五條ニ付テ直接審理ノ原則トスル、其原則ニ對スル例外ダ、斯ウ云フヤウニ實ハ心得テ居リマス、其例外ハ嚴格ニ解釋シナケレバナラヌ必要上、此規定ノ半面ノ法令ニ依ッテ作製シタル訊問調書デナケレバ、證據トスルコトガ出來ナイ、此訊問ハ法令ニ依ッテ作製シタル訊問ハ證據ニシテ、其他ノモノハ皆直接審理デナケレバナラヌト解釋スベキモノデハナカラウカ、隨テ此訊問調書ニ無クテモ、裁判所即チ豫審判事ノ作製シタモノデアッテモ、檢察官作製シタモノモ、ソ

レハ皆證據ニナラヌト云フヤウニ狹ク解釋スベキモノデハナカラウカト思ヒマスガ、其點ヲ伺ヒタイ

○林政府委員 是迄問題トモナリ且ツ大ニ攻究スルコトヲ要シマシタノハ、要スルニ人ノ供述ヲ書イタ書面、其書面ニ付テ色々ノ問題ガ起リマス、ソレデアリマスカラ三百四十五條ハ、被告人其他ノ者ノ供述シタモノヲ錄取シタル書類ト云フコトヲ唱ヘマシテ、サウ云フ書類ニ關シテハ、法令ニ依ッテ作製シタル訊問調書以外ノモノハ證據トナラナイ、斯ウ云フ原則ヲ明ニシマシテ、聽取書ノ如キモノヲ除外シマシタ、併ナガラ檢證調書ノ如キモノハ、現場デ必要ナル事實ノアッタキニ比較的近ク調べマシテ、其事實ヲ有ノ儘ニ書イタ書類デアリマスカラ、之ニ付テ信用ヲ置ケスト云フ問題ハ從來餘リ起リマセヌ、唯々裁判所ガ判斷ノ資料トシマス場合ニハ、ソレデハ十分ダト云フ場合ハアルノデスガ、サウ云フ場合ニハ、無論裁判所ガ眞相ヲ發見スル爲ニ自ラ行ッテ、檢證ヲ發見スルト云フコトハ必要デアリマスガ、前ノ檢證調書タケデ明白デ、更ニ態々行ッテ視ル必要ガ無いト居フ場合ニ於テハ、其調書ヲ證據ニ取ルト云フコトハ妨ゲナイト考ヘテ居リマス、本案モ其趣意ヲ出來テ居リマス

○府委員 ソレナラバ司法警察官ガ檢證ヲシテ、此百二十三條若クハ現行犯以外ノ場合ニ於テモ、證據トスルコトガ出來ルノデアリマスガ

○林政府委員 司法警察官ニ檢證ヲ許ス場合ハ極メテ少ナイ場合デアリマスガ、併ナガラ別ニ許シタ場合デアッテ、其手續ガ法律ニ違背シテ居ラスナラバ、ソレハ證據力ガゴザイマス

○府委員 モウ一遍伺ヒマス、此刑事訴訟法ノ趣旨カラ考ヘマスレバ、直接裁判所ガ審理ヲシタモノニ依ッテ判斷スルノガ、原則トナッテ居ル、三百四十五條ト云フモノハ其例外ダト認メテ居ッタガ、此三百四十五條ハサウ云フ關係ニ立ッテ居ル條文デハナイ、寧ロ訊問調書ニ對スル原則ヲ定メタモノト伺ヒタイノデアリマスガ

○林政府委員 直接審理ト云フ事ハ、無論審理ニ付テノ理想ニナッテ居リマスガ、之ヲ徹底スルト云フコトハ、實際ニ於テ困難デアリマス、又必要デナイ場合モアリマスノデ、ソレ故ニ本案ニ於テハ、直接審理ヲ何所迄モ徹底シナケレバナラヌト云フ主義ハ執ッテ居リマセヌ、ソコデ三百四十五條ハ總テノ書類ニ付テノ規定デアリナイノデアリマス、人ノ供述ヲ錄取シタル所ノ書類ニ付テノ規定デアリマス

○府委員 八十二條ノ例ノ此期間ノ適用ヲナスベキ場合ヲ御答ニナッテ居リマスガ

○林政府委員 ナッテ居リマス 八十二條ノ猶豫期間ハ、一般ノ法定期間ハ

適用ヲ受クルコトニナリ居リマス、唯テ特殊ノ即チ判決ノ
言渡ヲ受ケテ、判決ニ對スル不服ノ申立ヲスルヤウナ場合
ニハ、其性質ト適用ヲ除外スルコト云フコトニナリマス、サウ
云フ特殊ノモノ以外ニ於テハ、此法律ニ依リテ決定メテ定期
間ニハ、總テ適用ガ出來ルト云フコトニナリマス、ソレハ
ウ云フ場合カト云フ、條文ヲ見ルト明瞭デアリマス、其旨
ヲ昨日御答シテ御諒解ヲ得タ譯デアリマス

○宮古委員 此四百四十四條ニ關シテ、是ハ上告裁判ニ於
テ辯論ヲ聽カナイデ判決ヲスルコト云フノデアリマスガ、此
改正案デ四百四十四條乃至四百六十六條ノ規定ヲ設ケテ、サウ
シテ今迄ノ上告裁判所ノ權限ヨリモ非常ニ範圍ヲ擴張シタ
ト云フ事ハ、如何ニモ結構ナルモノデアルト信ズルノデアリ
マスガ、併ナガラ大半ノ利益ヲ失フデシマウノデナカト云
フ事ヲ氣遣フ、四百四十四條ニ於テ「上告裁判所第四百十四
條乃至四百六十六條ニ規定スル事由ナキコト明白ナリト認
メルトキハ其點ニ付辯論ヲ聽カズシテ判決ヲ爲スコトヲ得」
ト云フ規定ガアリマス「明白ナリト認メルトキハ」トアリマ
スガ、明白デ有ル無イハ固ヨリ上告裁判所ガ認メタル譯デア
リマスガ、明白ト上告裁判所ガ認メタル譯辯論ヲ聽カナイ
、今迄ノ現行法ニ於テハ辯論ヲ聽カナイデ判決ヲスルコト云フ
トニナリテ居リマセヌ、コ、デ辯論ヲ聽カナイデモ宜イト云
フコトニナレバ、辯論ガ輕々シク——書面ニ書イテアッテモ
辯論スルト云フト、大ニ發明スル場合ガ度々アリマス、唯テ
書面ダケデハハキリシナイガ、辯論ヲ聽イテ初テ能ク分ル
ト云フコトモ度々アリマス、辯論ヲ聽カナイデ判決スルト
云フコトハ、甚ダ好クナイ結果ニナリハシナイカト思ヒマ
ス、サウシテ四百四十四條乃至四百六十六條ノ規定ヲ設ケタ
ノデアリマスカラ、之ニ關シテハ矢張辯論ヲ聽イテ判決スル
ト云フコトニシマセヌト、上告裁判所ガ明白ナリト認メル場
合ニハ救済ノ途方無イ、之ニ對シテ抗告ガ出來ルトカ、上訴
ガ出來ルト云フコトガ出來ナイカラ、サウスルト辯護人ノ
方デ見レバ……

○鵜澤委員長 宮古君、説明ヲ省イテ……

○宮古委員 如何ニ理由ガ有テモ無クテモ裁判所デ理由
ガ無イコトガ明白ニナルト、最早其判決デ却下サレルト云
フコトニナル、是ハ矢張外ト同ジヤウニシテ、矢張辯論ヲ聽
イテ判決スルコトニシタ方ガ、折角ノ改正案ノ趣旨ヲ徹底
スルノ意味ニナリハシナイカト思ヒマス、サウ改メルノガ
適當デナイカト思ヒマスガ、ソレデハ困ルト云フ何カ理由
ガアリマスカ

○林政府委員 四百四十四條ノ場合ハ、誰ガ見テモ理由ガ無
イ判斷スル場合デアリマス、總テ辯論ヲ開クトナルト、御承
知ノ通り上告ト云フコトハ、辯護人ト云フヤウナ法律上ノ

知識ノアル人ノミガ出スモノ、ミデアリマセヌ、隨分被告
人デ分ラナイ事ヲゴタク——書イテ出スヤウナコトモアリマ
ス、此法案ガ通過シタ後ニハ、サウ云フ事ガ頻繁ニ起ルト思
ヒマス、サウ云フ場合ニ一々公判ヲ開イテ審理ヲシナケレ
バナラスト云フコトハ、何ノ利益モ無イト思ヒマス、又到底
大審院トシテハヤリ切レナイノデアリマスカラ、此法案ハ
實際上必要デアリマスシ、而シテ此通りニシテ何等ノ弊害
ハ無イ事ト思ヒマス

○宮古委員 此御尋シタノデアリマスガ、第二百八十三
條ノ時効ノ問題デアリマス、刑法ヲ取調ベマスト、十年以下
ト云フノガ非常ニ澤山アリマス、五年以下モ非常ニ澤山アリ
マス、試ニ調べマスト、十年以下ト云フノハ七十七條、七十
八條、八十八條、九十一條、九十二條、九十六條、百一十一條、百
一十四條、百一十八條、百二十一條、百三十八條、百四十七條、百五
十五條、百六十二條、百六十三條、百六十九條、百九十七條、二
百四十六條、二百四十五條、二百四十八條、二百五十三條、二
百五十六條、是ダケアリマス、又五年以下ヲ見ルト、是ハ十年
以下ヨリ少イ、七十四條、九十三條、九十九條、百一十三條、百
一十一條、二百三十七條、二百三十三條、二百五十九條、二百六
十七條、二百四十六條、二百五十九條、是ダケアリマス、ソコデ
今度ノ規定ニ依ルト十年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ該罪ニ付
テハ、五年ト云フコトニナリ居リマスカラ、之ヲ現行法ト
併セテ見マスカラ、十年以下ト云フノハ十年未満ノ方ニ入
リマセヌカラ、十年以上ニ入リマスカラ七年ノ時効ト云フ
コトニナル、ソレカラ五年以下ハ五年未満ノ方ガ三年ト云
フモノニ入リマセヌデ、十年未満ノ五年ト云フコトニ入ル
コトニナリ居リマス、サウスルト五年以下ト云フコトニナル
書方ト、五年未満十年未満ト云フ書方ト、僅カ日ノ違デアル
ニ拘ラズ、時効ノ方カラ申スト二年違フト云フコトニナル
ソコデ五年以下ト云フヤウガ十年未満ノ方ニ入ッデ、五年ノ
時効ト云フコトニナルガ、五年ハ五年迄ニ足リマセヌ、十日
デモ二十日デモ足リマセヌト、三年ト云フコトニナリマス、
僅カナ所デ二年ノ時効ガ違フト云フコトニナリテ、甚ダ不明
瞭ニナリハセヌカト思ヒマス、法律ガ五年未満ハ三年デ宜
シイト云フコトニシタノデアリマスカラシテ、詰リ四年ト
十一箇月ト云フヤウナモノデアッデモ、是ハ三年デ宜シイト
云フコトニ見タ譯デアリマスカラ、サウスレバ五年ト云フ
モノニ違シテ居ル方、即チ五年以下ト云フ分ニ對シテモ、矢
張三年デ宜シイモノデナカラウカト思ヒマス、ソレカラ十
年以下ト云フコトモ、刑法ノ書方ハ大抵以下ト云フコトニ
ナリテ「未滿」ト云フ文字ハ體刑ニハ殆ドアリマセヌ、唯テ勾
留ノ事ニ付テ三十日未滿ト云フコトガ書イデアリマスガ

ソレダケヲ以テアトハ「未滿」ノ文字ハ一ツモ使ハナイデ、
以下「ト云フノガ主デ、時々「以上」ト云フノガアルダケデ
アリマス、斯ウ云フ風デアリマスカラ、此釣合ヲ取ル以上ハ、
二百八十三條ハ「五年未滿」ト云フノヲ「五年以下」ト改メ、
「十年未滿」ト云フノヲ「十年以下」ト改メ、「十年以上」ト云
フノヲ「十年ヲ超ユル」ト改メ、方適當デアリカト思ヒマ
ス、サモナイト今申ス通り、少イモノデ不公平ニナリハシ
ナイカト思ヒマス、之ヲ斯ウ改メルトコトニシタ方適當ト思
ヒマスガ、如何デスカ

○林政府委員 政府ハソレハ適當デアイト考ヘテ居リマス、
其理由ハ今御話ニナリタ、例ヘバ三號ノ場合ニ付テ考ヘテモ、
十年ノ刑ニ處セラレハ罪ハソレダケ罪質ガ重イノデアリマ
スカラ、隨テ時効ノ期間ヲ長クスルト云フコトハ當然ト思
ヒマス、兎ニ角現行法ニ付テハ、例ヘバ竊盜ト云フト時効期
間ハ十年トナリ居リマス、本案ニ於テハ七年ト改メタノデ
アリマスガ、今ノ御話ノヤウニナルト、竊盜ノ時効期間ハ五
年ト云フコトニナル、現行法ガ十年ニシテ居ルノヲ五年ニ
スルト云フコトハ、實際上カラ考ヘテ適當デアイト思ヒマ
ス、故ニ御意見ハ同意ヲ致シ兼ネマス

○黒住委員 質問終了ノ動議ヲ提出致シマス

〔賛成〕ト呼フ者アリ

○鵜澤委員長 質問ハ是ニテ終了致シマシタ、ソレデ明日
ノ午前中ニ修正ガアレバ其修正ヲ聽イテ決議ヲ致シタイ
ト思ヒマスガ、如何デアリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○鵜澤委員長 ソレデハ左様ニ致シマス、午後一時カラ陪
審法ノ委員會ヲ開キマス

午後零時五十一分休憩

午後二時三十八分開議

○鵜澤委員長 ソレデハ午前ニ引續キ刑事訴訟法案ノ小委
員會ヲ開キマス、第四章抗告、第四百五十八條——第四百五
十九條——第四百六十條——第四百六十一條——第四百六
十二條——第四百六十三條——第四百六十四條——第四百
六十五條——第四百六十六條——第四百六十七條——第四百
六十八條——第四百六十九條——第四百七十條——第四百
七十一條——第四百七十二條——第四百七十三條——第
四百七十四條——第四百七十五條——第四百七十六條——
——一寸政府委員ニ承リマスガ、此抗告ハ是ハ矢張上訴ノ中
ニ這入ルノデスカ、這入ラスノデスカ

○山岡政府委員 上訴ノ矢張一ツノ方法デアリマス

○鵜澤委員長 本案ノ第三百七十九條ニ抗告ヲ爲スコトヲ
得、トアッテ是ハ上訴ノ中ニ這入ッテ居リマスナ

クニ、漏スコトナク總テノ場合ヲ網羅シテ、遺算ナキヲ期スルヤウニ致シタ次第アリマス、ソレ故ニ斯ノ如ク多クナリマスシ、又規定モ錯雜ニナツタ譯デアリマス

○竊澤委員長 モウ一點、宮古君ノ御質問ノ四百八十九條ニ關聯シテ居リマスガ、是ハ先程山岡政府委員ノ御説明ノ如ク本案ノ第四百三條ニ於テ「控訴裁判所ハ前條及第四百四條ノ場合ヲ除ク外被告事件ニ付判決ヲ爲スヘシ」此意味ニ於テ控訴ニ付テハ成ベク覆審ノ趣旨ヲ貫カントラ期スト云フコトニ依ツテ、斯ウ云フ風ニ了解シテ宜シウゴザイマスカ

○山岡政府委員 其通りデアリマス

○宮古委員 此四百八十六條ノ第五デスガ、政府委員ノ御答ニ依ルト、此文句デハ了解シ惡イト思ヒマス、有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ無罪若ハ免訴ヲ言渡スベキ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ刑ノ免除ヲ言渡スベキ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムベキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ「斯ウナラナレバ」判斷シナイト思ヒマス、言渡ト言フノハ何所ニ掛リマスカ分リマセヌケレドモ、私ノ言フノト趣意ガ同ジデアッタラ、斯様ニ修正ラシタラ宜カラウト思ヒマス

○山岡政府委員 別ニ差支ハナカラウト思ヒマス

○竊澤委員長 第六編非常上告、第五百十八條——第五百十九條——第五百二十條——第五百二十一條——第五百二十二條

○宮古委員 第五百二十二條「ニ非常上告ヲ理由アリトスルトキハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スヘシ」一、原判決法令ニ違反シタルトキハ其違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決被告人ノ爲メ不利益ナルトキハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ爲ス「是ハ」ドウ云フ趣意デアリマスカ、判決ヲスルト云フコトデハ不都合ガアツテ斯ウ云フ風ニ區別ヲ立テタノデアリマスカ

○山岡政府委員 此點ガ上告ノ根本義デアリマス、上告ナルモノハ法ノ適用違背ヲ正シマシテ、將來ニ於ケル司法ニ範ヲ示シテ、再ヒ誤ナカラシムル爲ニスルノデアリマシテ、法律ノ利益ノ爲ニスルニ外ナラヌノデアリマス、故ニ唯其違反シタル部分ヲ破毀シサヘスレバ、ソレデ此非常上告ノ目的ガ實カレル譯デアリマス、ソレデ事件ニ付テ判決ヲ爲ス場合ニハ被告人ノ爲ニ判決ガ不利益デアッタ時分タケ、被告事件ニ付テ更ニ判決ヲ爲スノデアリマス、是ハ即チ例外ニ屬スルノデアリマス其趣旨ハ假令確定シタル判決ト雖モ、審理ノ結果、違法ガアツテ被告人ノ不利益ノ時ニハ、之ヲ救済スルト云フノガ、法律ノ利益ノ爲ニ、又手續ノ場合ニ於テ副産物ト言フテモ宜カラウト思ヒマス、其利益ヲ與ヘル

コトハ適當デアルト、斯ウ云フノデアリマス、故ニ被告人ニ更ニ爲ス判決ガ不利益ナル場合ニ於テハ、之ヲ爲スベキモノデナイ、再審ニナリマス、被告人ニ不利益ナ爲ニ更ニ判決ヲスル、即チ事件ニ付テノ判決ヲスルノガ再審ノ目的デ、非常上告ノ事件ニ付テ判決ヲ爲スニアラズシテ、法ノ利益ノ爲ニ違背シタル處置ヲ破毀ス、斯ウ云フ次第デアリマス

○宮古委員 法律適用ノ統一ヲ圖ルコト云フ爲ニ破毀スル、サウシテ適當ナル法律適用ヲ示ス譯デアリマセウガ、ソレ被告本人ノ爲ニ不利益デアラカドウカト云フコトヲ觀別スル必要ガ起リテ來ルノデアリマスガ、被告人ノ爲ニ不利益デアラカ否ヤト云フコトヲ觀別スルト云フコトハ、中々困難ナ場合ガアリハシマセヌカ、法律ノ適用ガ誤ッテ居ル又別ナ法律ヲ以テモ矢張同ジ有罪デアルト云フヤウナ場合モアリマセウガ、サウ云フ場合ニハ、ドウ云フ風ニシテ被告人ノ利益不利益ヲ見分ケルノデアリマセウカ

○山岡政府委員 此點ハ極ク單純デ、容易ク分ルノデアリマス、事件ノ内容ニ違入ッテ、實質上ノ利益不利益ヲ判斷スル事ニナリマスルト容易ニ分ラヌ、是ハ法律上カラ見タル利益不利益ヲ見分ルノデアリマスカラ、適用條項ガ、例ヘバ占有利得物ニ對シテ、横領罪ヲ適用スルトカ、竊盜罪ノ條文ガ適用シテアツタトスレバ、不利益デアルトハ能ク分リマス、又總則ノ場合ニ於テモサウデアアル、例ヘバ牽連罪ヲ適用スル場合ガソレデアアル、一罪トシテ處斷スヘキモノデアアルノヲ、併合罪トシテ處斷シテ過重刑ヲ言渡シタト云フ場合ハ、是モ直ニ不利益ナルコトガ分リマス、斯ノ如クニシテ利益不利益ヲ見ルノデアリマスカラ、極ク容易ク考ヘラレル譯デアリマス

○宮古委員 多クノ場合ニ於テハ、利益不利益ハ分ルダラウト思ヒマスガ、併シ若シ同ジ刑期ノ法令デアリマシタ時ニハ、ドウ云フ風ニシマスカ、何方ノ法令ヲ適用シテモ、例ヘバ五年以下ノ懲役ト云フコトニ處シヤウト云フ時ニハ、ドウ云フ風ニ判斷スルノデアリマスカ

○山岡國務大臣 其點ニナリマス、今日ノ訴訟法ノ解釋トシテハ、利益ナリヤ不利益ナリヤハ刑ノ輕重ニ依ル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、此條文ニ付テハ今迄ハ例ガ無イノデアリマスカラ、此解釋ハ今日マデノ他ノ例デハ、控訴上告ニ於テハ利益不利益ヲ變更スルコトヲ得ズト云フアノ解釋ガ矢張此處ニモ適用サレルコト、考ヘテ居リマス、故ニ罪ガ變テハ刑期ニハ何等ノ影響ノナイ場合ハ、之ヲ以テ法律スル譯ニハ參ラヌノデアリマス

○宮古委員 サウスルト、内容ニ違入ッテ見テ、サウシテ刑ノ量定方之デ適當デアラカドウカト云フコト、例ヘバ裁判所ニ於テ兩様ノ法令ヲ適用シテ、例ヘバ一方ノ法令デハ三年ノ懲役ガ適當デアリ、他ノ法令デハ五年以下ノ懲役ニ處スルト云フコトニナルト、何方ヲ採ルノデアリマスカ、裁判所ノ認ムル所ノ刑ノ量定方、即チ片一方ノ法令ニ依ツテ判決、レバ、三年ノ懲役ニスルノガ至當デアアル、又別ナ法令ニ依ッテ判決スレバ、二年ノ懲役ニ處スルノガ適當デアルト云フ場合、裁判所自身ガ判斷シテ、サウシテ二年ノ懲役ニ處スルト云フコトガ、至當ト云フ場合ニハ、利益ニナルノデアアルカラ——所謂不利益ノ場合デアアルカラ、破毀スルト云フコト同ジデアルト見タ場合ニハ、何方ニモ不利益デアアルカラ破毀ハスルガ、事件ニ付テノ判決ヲスル、斯ウ云フコトニナリマセウカ

○山岡政府委員 其點ハ前ニ述ベタヤウニ、實質ニ違入ッテハドウモ變ヘラレナイ、法律の見解ノ下ニ判斷スルノデアアルカラ、例ヘバ十年以下ノ懲役ニ處スルト云フコトデアアリマスレバ、被告ニ不利益ト見ル譯ニハ行カナイ、詐欺ト竊盜トハ全ク同一刑デアアル、故ニ斯ノ如キ場合ニ於テ、不利益ナリトハ言ヘナイ是ハ法定刑ノ大體ノ基本デアアル、而シテ處斷刑マデハ勿論斟酌サレテ居リマスガ、ソレ以上ハ斟酌サレテ居ナイ

○宮古委員 此點ハ後日誤解ノナイヤウニシタイト思ヒマスガ、例ヘバ甲ノ法令ニ於テ十年ニ相當スルガ、乙ノ法令ニ於テ十年ニ相當スル、斯ウ云フ風ニ解釋ガ同ジデアツテ被告人ニハ不利益ニナラヌサウ云フ場合ニモ、破毀シテ判決シナイト云フコトニナリマセウカ

○山岡政府委員 此點ハ此處ニ明ニシテ置イタ方ガ宜シイト思ヒマスカラ更ニ申上ゲマス、今日被告人ノ利益不利益ヲ變更スルコトヲ得、得ズト云フ解釋ニ付テハ、議論トシテハ、例ヘバ竊盜ト詐欺ト比較スルト竊盜ノ方ガ不名譽デアアル、ソレカラ強盜ト他ノソレニ相當ナル所ノ罪ト比較スルト、強盜ハ何トナク不都合ナ罪デアアル、斯ウ云フヤウナ意味ニ於ケル變更ニ付テハ、被告ニ不利益ナリト云フ譯ニハ行カナイ、斯様ナ解釋ヲ致シテ居ル、併シ是ハ一面ニハ罪ガ變レバ不利益デアアル、斯ウ云フコトニ議論トシテハ言ヘナイコトモナイノデアアル、併シ裁判例ニ於テ、總テ不利ト云フ意味ハサウナツテ居ルノデアリマスカラ、茲ニ於ケル解釋モ自然其處ニ歸着スベキモノデアルト、斯ウ考ヘテ居リマス

○宮古委員 サウシマスルト、甲ト乙ノ法令ニ依ッテ違フコト云フ場合、甲ノ法令デハ十年以下ノ刑ニ當ル、乙ノ法令デモ亦十年ノ刑期ニ當ル、斯ウ云フ風ニ何方モ長期モ短期モ同ジデアルト云フ場合ガアツタ時ニハ、ソレデケデ判斷スル譯ニハ行カヌ、デ一體罪其モノヲドウ云フ罪デアアルカト云フコトヲ先ヅ判斷シテ、サウシテ竊盜ノ罪ト詐欺ノ罪ト云フ

コトデアレバ、ドチヲカ被告人ニ不利益デアルカト云フ事
マデ判斷シナケレバ、刑期ダケニ依ッテハ判斷スルコトガ出
來ナイ、詐欺ト竊盜トヲ比ベルト、竊盜ハ不名譽デアル、ソ
レデ若シ竊盜ノ罪デ刑ニ處セラレテ居ッタラバ、矢張破毀
シテ判決スル部類ニ屬スル、サウ云フ風ニスル如クニ受取
レマスガ、サウ云フコトニナレバ、餘程困難ニナリハシナイ
カト思ヒマスガ、何方ノ罪ガ不名譽デアルカト云フコトノ
判斷ハ、中々容易ニ分ラヌコト、思ヒマス、人ニ依ッテ見方
ガ違ヒマセウト思ヒマスガ、サウ云フコトニ依ッテ破毀シテ
判決ラスルト云フコトガ極マルト云フコトデアリマスガ、
ドウモ色々ノ事件々々デ問題ガ起ルカモ知レヌ、唯刑ノ長
期及短期ガ同一デアレバ同ジコトデアルガ、ソレガ違ヘバ
一方ノ長期ニ直レバ被告ノ方ニ不利益デアリ、短期ニ直レ
バ利益ナコトデ、判決スルノニ洵ニ簡單ニ參リマスガ、ソレ
以上ニ色々ナモノガアッテ、何方カ利益デアリ、又利益デア
ルト云フコトノ區別ハ中々容易デナカラウト思ヒマスガ、
立法ノ趣意ハ、今ノヤウニ罪質ニ依ッテ判斷ヲシテ、利益不
利益ヲ極メルヤウナコトニナルデスカ

○山岡政府委員　其點ハ私ガ申シタコトガ徹底シテ居ラス
ノデス、詰リ今日ノ不利益變更ト云フ解釋ハ、罪質ノ變更モ
爲シ得ルヤ否ヤト云フガ議論ニハナツテ居ルガ、併シ裁判例
ハ刑期ノミニ限ッテ、刑ヲ重クスレバ不利益デアル、輕クス
レバ利益デアル、斯ウ云フ解釋ニナツテ居リマスカラ、議論
ニハサウ云フコトモアリマスカ、今日ハ刑期ダケノ問題ニ
ナツテ居ルノデアリマスカラ、此法文ヲ解釋スルニモ、恐ラ
ク只今宮古君ノ末段ニ述ベラレタヤウニ、單純ニ解釋ラス
ルノデアラウト述ベタノデス

○宮古委員　ソレナラフツテ居リマス

○鵜澤委員長　非常上告ノ全體ニ付テ質問シテ置キタイニ
トガアリマス、此理由由書ノ一番初ニモアリ、又政府委員モ初
ニ説明セラレマシタガ、「非常上告ヲ爲シ得ベキ範圍ヲ擴張セシメ」ト云
シ法律解釋ノ統一ヲ歸スル制度ノ趣旨ニ適合セシメ」ト云
フコトガアリマス、ソレカラ五百二十三條ノ理由ノ説明ト
シテ「原判決又ハ訴訟手續ノ法令ニ違反シタル部分ヲ破毀
シ判決自體ヲ破毀セズ而シテ破毀ノ效果ハ被告人ニ及バザ
ルヲ原則トス、是レ非常上告ノ目的ガ法律適用ノ統一ニ在
ルヲ以テナリ此原則ニ對スル例外ハ法令ニ違反シタル判決
ガ被告人ノ爲メ不利益ナルトキナリ」斯ウアリマスガ、全體
ニ非常上告ヲ認メテ、茲ニ第六編トシテ規定サレマシタノ
ハ、判決ノ統一、殊ニ解釋ノ統一ト云フコトガ趣旨デアル、
斯ウ云フヤウニ了解サレルノデアリマス、併ナガラソレヲ
統一スル爲ニ、原判決ヲ破毀シタ場合ニ、若シ被告人ノ爲ニ不
利益ナル時ハ、例外トシテ、其被告事件ニ付テ裁判ヲスル、

即チ此一面ニ於テ法律ノ統一ヲ爲スト共ニ、尙被告個人ノ利益ヲ圖テ判決ヲスルノダラウト思フ、斯ウ云フ趣旨ダラウト思フ、所ガ之ニ反シテ被告ノ爲ニ、モット重キ罪ヲ科スルノガ適當デアラウト思フ場合ハ、ドウシテモソレハ被告ノ利益ニ前判決ヲ歸シテ居リマスカラ、ソレニハ觸レナイト云フ趣旨ニ理解シテ宜シイノデスカ

○山岡政府委員 御述ベノ通りデアリマス

○鵜澤委員長 第七編略式手續，第五百二十五條——第五
百二十六條——第五百二十七條——第五百二十八條

○黒住委員　此略式手続ニ付キマシテ御尋ね致シマス、勿論大正二年ノ法律第二十號ノ刑事略式法ヲ持ッテ來ラレタモノト思フノデアリマスガ、簡易裁判手續デアリマスカラ、此簡總テガ簡易ニ取扱ハレルノハ勿論裁判手續デアリマスガ、此簡易ノ意味ニ於テ、五百二十八條ニハ三百六十三條ノ區裁判所ニ於テ、懲役若クハ禁錮一年以下ノ刑ノ言渡又ハ刑ノ免除ノ言渡ヲ爲ス場合ノ裁判書ト云フモノヲ一層簡易ニサレ

テ、即チ五百二十八條ニハ、罪トナルベキ事實、適用シタル
法令、科スベキ刑ダケヲ列ベテ宜イト云フコトニナル、手續
ハ簡易デハゴザイマスガ、私共ノ考デハ、裁判ハ國民ガ怙服
シテ、コレヲ裁判ノ威信ガアルノデアリマシテ、唯事實ヲ列ベ
テ、法令ヲ適用シ、罰金幾ラニ處スト云フダケデハ、處分
受ケタ方カラ見ルト、甚ダ不満足デアル、ドウ云フ理由デ
ノ證據ニ依ッテ斯様ナ處分ヲ受ケルト云フコトガ判明シ
イ、ソレハ結局裁判ノ威信ニモ關係スルコトニナル、サウシ
テ正式裁判ヲ仰グ者ガ多クナリハセヌカ、其他色々ナ事
考ヘラレルノデアリマス、何故ニ此證據ノ説明ヲ御削リ
ニナツタノデアリマスカ、其點ヲ伺ヒタイ

○林政府委員　略式手續ハ其處分ガ極メテ輕ク、且ツ事件ガ明瞭ノ場合ニ於テ行フ手續デアリマスカラ、其簡易手續ヲ設ケテ精神カラ考ヘテモ、一々證據説明マデスルト云フコトハ、本來ノ趣旨ニ合ハヌコトニナルカト考ヘマス、ソレデ裁判書ニハ事實ト法令ノ適用、科スベキ刑ヲ書イテ、ソレニ依ツテ如何ナル事實ニ基キ如何ナル法令ノ適用ヲ受ケタ刑デアルカト云フコトガ分ルノデス、ソレニ不服ナラバ、正式裁判ノ請求ガ出來ルコトニナル、被告人ノ保護カラ見テ、證據説明ガ無イカラ不都合デアルト云フコトニハ立至ルマイト考ヘマス

○黒住委員 併シ區裁判所ノ管轄ニ屬シマス、而シテ略式手續ニ依リテ裁判ヲ受ケマス者ハ、罰金科料ニ該當スルノデアリマスカラ、非常ニ事件ハ多イノデアリマシテ、此處分ヲ受ケル者ハ、私共ガ取扱フ上カラ見マスト、概無智識級ノ人ニ多イ、隨テ手續ハ簡易デモ宜イガ、丁寧ニシテ、其處分ヲ受ケザルベカラザルニ至リタ理由ヲ知ラシメル必要ガアル

ト考ヘマスガ、左様ノ御考ハ無イノデスカ
○林政府委員 其點ハ成程或事件ニ於テハ、サウ云フ御感
ジノ起リタコトモアルカモ知レマセスガ、略式手續ノ全體ト
シテ考ヘテ見マスト、一々證據ヲ書クト云フコトハ、此手續
ヲ設ケタ本旨ニ合ハヌト考ヘマスカラ、矢張原案ノ儘デ然
ルベキコト、存ジマス

○黒住委員 是ハ先ニ

シテ居リマス、今一ツ伺ヒマス、五百二十五條、五百二十六條ハ、略式命令ノ請求ハ、公訴ノ提起トハ自ラ別個ノモノデ

○林政府委員 略式命令ノ請求ハ、公訴ノ提起ト同時ニヤ
ルコトニナリテ居リマスノデ、ソレヲヤル場合ニ、一々被告
人ニ相談スルト云フコトハ、實際ニ於テモ困難デアリ、檢事
ガ適當ニ判斷シテヤリマスレバ、結果ニ於テハ支障ガ起ル
マイト思ヒマス

〇黒住委員シレハ五百二十五條ヲ前掲シテハ御答辯アリマスガ、私ハ此規定ハ甚ダ當ラ得ヌト思ヒマス、公訴ノ提起ヲサレル場合迄ニ、又サレテカラ、被告ト云フモノガ全ク無關係デ事件ハ進行シテ居ルノデハアリマセヌ、又極メテ簡易デ、殆ド取調ベル必要ノナイヤウナ事件デモ、通知カ何カノ方法ヲ以テ、被告人ニ知ラセル必要ガアラウト思ヒマス、是ハ兩方離ルベカラザル事デ、公訴提起ト略式命令ノ請求ヲ同時ニ獨リ檢事ノミニ御與ヘニナル、公訴權ノ提起ハ檢事ニ限ツタト云フコトト、何モ關係ノ無イ事デアリマス、段々實際ノ方面カラ考ヘテ見ルニ、檢事ノ考デ或ハ之ヲ爲サヌコトモゴザイマセウ、即チ次ノ條文ニアルヤウナ考

ヲ以テ前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件略式命令ヲ爲スコトヲ得ス又ハ之ヲ爲スコトヲ相當ナラスト思料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ」斯ウ云フ考ヲ以テ、略式命令ヲ致サヌ併シ被告人ノ方カラ見マスト、世評ニ上ルコトガ甚ダ不名譽デアルガ爲ニ、此五百二十五條ニ該當スル事案デアレバ、先ヅ進ンデ被告人ノ方カラ簡易手續ニ依ッテヤッテ貰ヒタイ、即チ略式命令ヲセシメテ適當ナリト考ヘマスガ、何カソレハ弊害デモ起ルト云フ御考デアリマスカ

○林政府委員　其點ハ一ツノ御考トシテ承リマスガ、本案

ニ於テハ略式命令ニ付スルカドウカヲ決スルニ付テハ、檢事ハ無論被告人ノ周圍ノ事情等ヲ研究シタ上デ致スノデアリマスカラ、檢事ノ判斷ニ委ネテ、實際ノ結果ニ於テ、被告人ガ其爲ニ遺憾ヲ感ズルコトハ斷ジテ無イ積リデアリマス

○黒住毀員 此五百二十五條ノ第四項デアリマス「裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看

做ス 其前項ニハ「略式命令ハ被告人ニ裁判書ヲ贈本ヲ送達シテ之ヲ爲ス」斯様ニ前項ニハ被告人ニ裁判書ヲ送達スルト云フコトヲ定メテ置イテ、サウシテ書記ガ本人ニ贈本ヲ交付シタル場合ニモ送達シタルモノト看做ス、甚ダハ手續ノ規定トシテハ錯綜スルヤウナ嫌ガアリマスガ、第四項ヲ削ルト何カ不都合ガ生ジマスカ

○林政府委員 第四項ハ略式手續ガ簡易訴訟手續デアルト云フ其性質カラ限レマシタツノ簡易送達ノ方法デアリマス、被告人ガ裁判所ヘ來テ居ル、サウシテ裁判書ヲ書記カラ渡シタ、斯ウ云フ事ニナリマスレバ、必シモ一般ノ法則ニ從テ送達スル必要ハアルマイト考ヘマス、被告人ハソレニ依テ十分略式命令ノ内容ヲ知ルコトガ出來ルノデアリマシテ、要スルニ送達セラレタト實際同ジ結果ヲ生ズルノミナラズ、或ハ實際的ニ考ヘレバ、本人ガ受取タノデアリマスカラ、送達以上ノ手續デアルトモ見エマス、サウシテ實際的ニ考ヘテ、極メテ簡易ノ方法ニナルノデアリマスカラ、矢張此手續ハ略式手續ヲ設ケテ精神ニ極メテ合フ筈デアルト考ヘマス

○黒住委員 私ガ此間ヲ發スルノハ、正式裁判ノ期間ノ開始ニ關係ヲ持ツカラデアリマス、寧ロ正式裁判ヲ請求スル被告ノ利益ノ爲ニ、第三項ダケ事足ルヤウニ考ヘルノデアリマス、或ハ贈本ノ請求モ致シマセウガ、左様ナ事ハ正式裁判請求ノ期間ニ關シテ、危險ノヤウナ考ガ致スノデアリマス、何トナレバ如何ニモ本人ガ取ツタノダカラ間違ガナリ、寧ロ送達以上ノ確ナモノデアル、議論シテハ御尤デアルケレドモ、裁判所カラ裁判書ヲ贈本ヲ受取タト云フコトカラ、直ニ期間ガ始マルト云フヤウナ觀念ハ、斯ウ云フ裁判ヲ受ケル者ニハ中々徹底シナイ、從來ノ習慣カラシテモ、執達吏ガ持ッテ來テ送達スルコトニナレバ、茲ニ期間ガ開始スルト云フ考ガ習慣上起リハシナイカ、隨テ被告人ガ不利益ヲ不識ノ間ニ蒙ルヤウナ事ガアリハシナイカ、ドウシテモ此規定ガ必要デアリマスカ

○林政府委員 送達ノ方ハ、一定ノ形式ヲ具備シマセシレバ、本人ガ知ラヌ場合デアッテモ、送達ノ效力ガ生ズルコトニナッテ居リマス、所ガ第四項ノ場合ハ、本人ガ自ら受取ル場合デアリマスカラ、本人ノ利益ノ方面カラ考ヘテ見テ、第四項アルガ爲ニ不利益ト云フコトハ如何デアラウカと思ヒマス、詰リ第四項ガアリマスレバ、本人ガ送達ヲ受ケテ、之ヲ知ツタ時カラ期間ヲ計算サレマス、送達ノ場合デアリマス、送達ノ事實ヲ本人ガ知ラズシテ期間ガ進行スル場合ガ起ル、故ニ之レアルガ爲ニ不利益ト云フコトハ考ヘテ居リマセス

○鶴澤委員長 第五百二十九條——第五百三十條

○宮古委員 五百二十五條ノ第四項ニ「裁判所書記本人ニ」ト書イテアリマスガ、是ハ被告人ト云フ意味デ、被告以外ノ代理人ニ交付シタル場合ハ、無効ト云フノデアリマスカ

○林政府委員 本人以外ニ交付シタル場合ニ、送達ノ效力ハ全然認メマセス

○鶴澤委員長 第五百三十條——第五百三十一條——第五百三十二條

○宮古委員 五百三十一條ニ付テ伺ヒマス、私共ハ元來略式手續ニハ實際反對デス、略式手續ト云フコトハ、今迄弊害ガアリマシテ、成程政府委員ノ御説明ニ依ルト、如何ニモ簡易デ、被告人ガ却テ之ヲ喜ブ者ガアルデノアル、斯ウ云フコトガゴザイマシテ、一面ノ理窟ハ確カニ認メテ居リマスガ、併ナガラ又他ノ一面カラ考ヘルト、弊害ガ中々多イ、其事ニ付テハ、過日一寸申上ゲテ置キマシタガ、實例ノ上デハ、簡易ノ手續デアアル爲ニ、心ニモナイコトヲ言テ、罰金ナリ、科料ナリヲ受ケテシマッテ、其人ノ爲ニハソレデ宜シイトシテ、ソレガ他ノ者ニ對スル證據トナル事ガ非常ニ澤山多イノデアッテ、選舉違反ノ事件ノ如キハ、度々サウ云フ事ニ遭遇致シマス、一方ノ方デ被告ノ或ル人ガ斯様ナ事實ヲ言テ、罰金ヲ受ケテ居ル、其人ノ刑ト云フモノハ、略式命令ニ依ッテ確定シテ居ルカラ、立派ナ證據デアルト云フコトヲ言ッテ居ル、他ノ事件ニ應用スルコトニ度々遭ッテ居リマス、サウ云フコトヲ見聞致シマスガ、全ク略式手續ハ弊害ガ多ク、宜クナイト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレガ爲ニ辯護士協會ナドデモ、之ヲ除ク意見ニナッテ居リマス、別ケテ五百三十三條ノ「正式裁判ノ請求ハ之ヲ抛棄シ又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取下コトヲ得」ト云フコトニ書イテ居リマス、先ヅ被告人ガ抛棄スルコトガ勝手ニ出來ル、斯ウナッテ居ルノデアリマスガ、之ヲ度々檢事ガ濫用スルコト云フノハ、檢事カラ申シマス、自分ノ請求シタル略式手續ガ確定スルコトヲ望ムコトハ、人情ノ上ニ已ムヲ得ヌコトデアラウト思ヒマス、正式裁判ヲ仰ガルコトハ、檢事ノ方カラ言タナラバ、餘リ名譽デナイト云フコトニ考ヘルノガ無理ガナイ、檢事ノ方カラ申シマスレバ、正式裁判ガナクシテ、自分ノ略式手續デヤッタコトヲ、ソレデ確定シテシマウコトヲ望ムノハ、人情上已ムヲ得ヌ事デアラウト思ヒマスガ、今日頗ル弊害ガアリマス、ソレデ被告人ニ決シテ正式裁判ヲシテハイカス、ト云フコトヲ度々言フ、オ前ガ正式裁判ヲ受ケナケレバ斯ウ云フコトニスル、例ヘバ百圓ノ罰金ガ相當デアルケレドモ、五十圓ニ負ケテヤラウト云フコトデ、マルデ縁日商人ノヤウニ負ケルノ負ケナイノト云フコトデ、言フ檢事ガ中ニアルサウデアリマス、サウ云フ者ガアルモノデアリマスカラ、被告人ハ正式裁判ヲ仰グト、モット澤山

ナル罰金ヲ取ラル、コトニナリハセヌカト云フコトヲ憂ヘタリ、色々ナ面倒ナ手續ヲ要シ、又費用モ澤山掛ルト云フコトデ、心ニモナク抛棄スルコトガ度々アルヤウニ思ハレル、ソレデアリマスカラ、先ヅ略式手續ノ規定ハ、此通りニ存在シテ置クモノト假定致シマシテ、此抛棄ト云フコトハ、一ツ廢メテ貫ヒタイト存ズルノデアリマス、例ヘバ抛棄ヲシナカッタ所ガ、七日内ト云フコトハ此處ニ極メテ居リマス、七日内ニ正式裁判ヲ請求シナケレバ、確定スルノデアリマスカラ、殊更ニ被告ノ抛棄ト云フコトヲ言ハヌデモ差支ナイ、正式裁判ヲ仰グトモ仰ガストモ、被告人ノ隨意トシテ、期間内ニ任意ニ判斷スル事ニシテ置ケバ、比較的弊害ガ少クナルダラウト思ヒマス、抛棄ト云フ事ヲ書イテ置クト、檢事ガ初カラ抛棄ヲサセル手續ヲ執ッテ、抛棄スルナラバ刑ヲ負ケテヤルト云フ虞ガアリマス、アナタ方政府委員ノ諸君ハ御存ジガナイカ知ラヌガ、實際ニ於キマシテハ、遺憾ナガラ左様ナ事ガ澤山アリマス、ソレデ此位ノ事ハ先ヅ大シタ事デモナイノデアリマスカラ、別段ニ抛棄ナド書イテ置カヌデモ、期間内ニ正式裁判ヲ請求スルトシナイト被告人ノ任意ニ委セテ、抛棄ト云フコトハ、除イテシマウト云フ事ニ致シマスレバ、餘程弊害ヲ除ケヤウト思ヒマスカラ、被告人ノ利害ノ爲ニト云フ御意見デアアルカ知ラヌガ、却テ被告人ガ不利益ニナルコトガ多イト思ヒマスカラ、被告人ガ正式裁判ヲ請求ヲ抛棄スルト云フ規定ダケヲ除キタイ、ソレニ御同意ヲ願ヒタイト思ヒマスガ、政府ノ所見ハ如何デアリマスカ

○林政府委員 遺憾ナガラ御同意致シ難イノデアリマス、ソレハ檢事ガ略式命令ノ處分ニ對シテ、正式裁判ノ請求ヲ抛棄スルコトヲ勸誘スル上ニ於テ、非常ナ不都合ナ事ガ澤山アル、斯ウ云フ御話デアリマスガ、檢事ガ一體略式ノ命令ニ對シテ、正式裁判ヲ抛棄ヲ勸誘スル必要ハアリマセス、サウ云フ次第デ今日御述べニナッタコトハ、私ハ事實トシテ認メル譯ニイキマセス、殊ニ是ハ前回ニモ申シタ通り、略式命令ノ抛棄ニ關シマシテ、當事者ノ便宜ヲ圖ッテ、檢事局ニ於テ抛棄ノ書面ヲ作ッテ置イテ、サウシテソレヲ抛棄ノ場合ニ利用スルコトヲ許シタヤウナコトガアリマスカラ、色々ノ疑惑ヲ蒙ッタト云フコトガアツタモノデアリマス、先年此點ハ訓令ヲ出シテ、斷ジテサウ云フ事ハヤラヌヤウニシタ方宜シイト云フコトニ致シマシタ、其以來ハ全クサウ云フ事ハナイ關係ニナッテ居リマス、殊ニ檢事ニ於テ宮古君ノ言ハレタヤウナ事實ハ、絕對ニ無イト私ハ信ジテ居リマス、サウ云フ次第デアリマシテ、是レアルガ爲ニ非常ニ弊害ガアルコトハ認メマセヌシ、又抛棄ト云フコトノ性質カラ申シマシテ、豫メ抛棄スルコトハイカメセヌケレドモ、既

ニ權利トシテ發生シタ後ニ於テ處分スルコトハ認メテ宜シ
イ、此法文ノミデハゴザイマセス、上訴權ノ拋棄モ許シテア
リマス、或ル場合ニ多少ノ弊ガアツタコト云フコトヲ土臺トシ
テ全體ヲ動カスコトハ、ドウシテモ同意シ難イ點デアリマ
ス

○宮古委員 政府委員ノ方カラ見ラル、ト、御説ノ通りニ
見ラレマスガ、是ハ表面觀察デアッテ裏面觀察ハサウデナイ
訓令ヲ出サレタコト云フ事デ、洵ニ結構デアリマス、クレドモ、
連モ訓令ヲ出シタカラト云ッテ、總テノ檢事ヲシテ其通りニ
行カシムルコト云フコトハ、容易デナイコト、思ヒマス、ソレ
カラ尙ホ此上訴ノ場合、是ハ私ハ拋棄ヲ許シテモ差支ナイ
ソレハ上訴ノ場合ニ於テハ、控訴ナリ、上告ナリヲスルト云
フコトデ、其時ニハ事件ヲ進行シテ居ル場合デアアル、多ク辯
護人モ付イテ居ル場合デアリマス、殊ニ裁判所ノヤル
コトデアリマス、大シク弊害ガ無イト思ヒマスガ、併シ
略式手續ノトキハ、檢事ガヤル、檢事ガヤルノデアリマス、カ
ラ、ドウモ檢事ガ主タル役務トシテヤル、拋棄ノ處分ヲ執ル
コトハ檢事ガヤラレ、ソレデアリマス、裁判所自ラヤ
ルナラバ、宜シイカ知レヌト致シマシマス、裁判所自ラヤ
ルトヨリハ、檢事ガ事實上ノ仕事ヲシテ居ル、ソレデ檢事ガ被
告人ニ向ッテ、前是デ正式裁判ヲ仰ガヌト云フコトニスル
ナラバ、刑ヲ此位ニシテヤルト云フヤウナ事ヲ言フノデ、
又其裁判モ其通りニナラノデアリマス、カ、ドウモ是ハ上
訴ノ場合ハ同ジニ見ラレマス、カ、上訴ノ場合ハ宜イ
ト致シテ、私共モ敢テ異論ガアリマセ、略式手續ノ場合
ダケハ、此正式裁判ヲ仰グコト云フコトヲ拋棄スルト云フ規
定ヲ除カ、方、私ハ先ヅ弊害ノ點ヲ見タ上カラ、熱心ニ希望
スルノデアリマス、ソレ以上ハ議論ニナルカラ申シマセ

○林政府委員 宮古君ノ御話ニ依ルト、檢事ガ非常ニ亂暴
ナ事ヲシテ居ルヤウデアリマスガ、ドウモサウ云フ事ハ實
際ニアルマイト思フ、檢事ガサウ云フ事ヲスル必要モアル
マイト思ヒマス、併ナガラ若シサウ云フ事ガ萬一アツタトス
レバ、ソレハ其檢事ガ不都合ナノデアリマシテ、若シ具體的
ノ事實ヲ御報告ヲ得レバ、相當ノ處置ヲシタイト思ヒマス、
殊ニ此法案ガ行ハレル際ニ於テハ、一層其等ノ點ハ考慮ニ
置イテ、斷ジテサウ云フ事ヲセヌヤウニ、責任ヲ持ッテ御答
シテ宜カラウト思ヒマス

○黒住委員 請求ノ拋棄ト取トハ、ドウ云フ區別ガアリ
マス

○林政府委員 拋棄ノ方ハ請求書ヲ出サヌ中デ、取下ノ方
ハ一旦出シタノ下ケルノデアリマス

○鶴澤委員長 第五百三十三條——第五百三十四條——第
五百三十五條——略式手續ニ付テハ質問ハアリマセヌカ

——ソレデハ私ガ最後ニ一ツ同ッテ置キマス、此略式手續ニ
付キマシテハ、現在ノ刑事略式手續法ト違ッテ居ル點ハ、豫
告ヲ廢シタ所ニアルト思ヒマス、此理由書ニモ現行法ニ於ケ
ル豫告規定ヲ廢シタアリマスガ、所ガ此目前ノ刑事略式手
續法制定ノ際、即チ現行ノ略式手續法制定ノ際、略式命令
ト云フモノハ、一種ノ命令デアアルケレドモ、其實際ニ於テハ
裁判ノ如キ效果ヲ持ツコトニナル、隨テ被告ノ人ヲシテ斯ノ
如キ裁判ヲ爲シテモ不服ハ無イコト云フコトヲ、先ヅ豫メ
通知ヲシテ置キタコト云フコトガ必要デアアルト云フヤウナ説モ
アツテ、此豫告ヲ置イタヤウニ記憶シテ居リマス、即チ
憲法上ノ關係カラ置イタヤウニ記憶シテ居リマス、實
際ニ刑事略式法運用ノ結果、豫告ト云フモノハ、實質ニ於テ
殆ド顧ミラレナイ、豫告ヲ發セラル、方ノ者ハ、之ニ向ッテ
重キヲ置カナイト云フヤウナ狀況ガアツテ、本案ニ於テハ其
必要ヲ認メナイコト云フコトニナツタノデアリマセウカ、其點
ヲ伺ヒタイ

○林政府委員 只今御尋ノ點ハ、現行ノ略式手續法ヲ制定
シマス時ニ、豫告ヲ必要トスルカドウカト云フコトニ付テ、
大分論ガアツタノデアリマスガ、結局豫告ト云フモノヲ入レ
マシタ、所デ現行法ヲ適用シテ、段々此手續ヲ行ヒマシタ實
際ノ經驗ニ考ヘマシテ、其手續ハ單ニ手續ヲ煩雜ニスルダ
ケデアツテ、何等ノ利益ガナイコト云フコトガ明瞭ニナリマシ
タノデ、ソコデ本案ニ於テハ其手續ダケハ省イタ、斯ウ云フ
趣旨デアリマス

○鶴澤委員長 省イテモ、憲法ノ對審公開ト云フコトニハ
一向影響ガ無イト云フ御考デアアルト、斯ウ了承シテ差支ア
リマセヌカ

○林政府委員 憲法ノ何レノ條項ニモ反シナイコト云フ確信
ヲ持ッテ居リマス

○鶴澤委員長 第八編裁判ノ執行、第五百三十六條——第
五百三十七條——第五百三十八條——第五百三十九條——第
五百四十條——第五百四十一條——第五百四十二條——第
五百四十三條——第五百四十四條——第五百四十五條——第
五百四十六條——第五百四十七條——第五百四十八條

○宮古委員 第五百四十八條ニ付テ一寸質問シタイト思ヒマ
ス、是ハ刑ノ執行ヲ停止スル場合ヲ規定シテ居リマス、殊ニ
デ、今迄ノ制度トハ違ッテ規定ニ相成ッテ居リマス、殊ニ
五百四十八條ニ書イテアル、七十歳以上ノ老人トカ、或ハ受
胎シテ居ル婦人トカ、分娩後ノ婦人トカ云フヤウナコトニ
對シテ、刑ノ執行ヲ停止スルコト云フコトデ、良イ制度ヲ設ケ
ラレタモノ、一ツデアアルト云フコトニ、私共ハ之ヲ認メテ
居ルノデアリマスガ、ソコデ唯此運用ニ於テ、檢事ノ指揮
デヤルコトハ、規定ノ通りデアリマスガ、餘程困難ナル場合

ガアリハシナイカ、又弊害モ之ニ依ッテ起ル處ガアリハシナ
イカト思フノデアリマスガ、例ヘバ七十歳以上ノ老人ニ對
シテ、刑ノ執行ヲ停止スルコト云フヤウナコトガ、如何ナル七
十歳以上ノ老人ニ對シテモ適用セラル、ト云フナラバ、沖
ハ弊害ガ起ラスカ知レマセヌガ、或ル人ニハ執行ヲ停止ス
ル、或ル人ニハ執行スルコト云フヤウナコトニナリマシテ、其
間ニ色々弊害ガ起リハシナイカト思ヒマスガ、是ハドウ
云フ標準ニ依ッテ致サレノデアリマス、次ニ「受胎後百
五十日以上ナルトキ」トカ「分娩後六十日ヲ經過セザルト
キ」是等ハ總テ執行ヲ停止シテ宜カラウト思ヒマスガ、是ハ
總テニ執行ヲ停止スルノデナイヤウニ認メナケレバナラヌ
ノデアリマス、ソレカラ「其ノ他重大ナル事由アルトキ」
ト云フガアリマスガ、是ハドウ云フ事ヲ指スノデアリマス
カ、モウ一ツ同ッテ置キタイノハ、「刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判
所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地
方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ」ト云フヤウナコトデ、何レ
ノ檢事デモ宜シイヤウニ見エマスガ、檢事ガ二人指揮者ニ
ナツタ場合ノ如キハ、其間ニ矛盾スルヤウナコトガ出來ハ
シナイデアリマセウカ、政府委員ノ御意見ヲ伺ヒタイ

○山岡政府委員 先ヅ第一ニ此條文ノ精神ハ、刑ノ執行ニ
執リマシテ、刑ノ要求スル所ノ意味ヲ過大ニ被告人ニ與フ
ベキモノデナイ、斯ウ云フ見地カラ此規定ハ出來テ居ル譯
デアリマス、ソレデアリマス、カ、受胎後百五十日以上デ
アルトキ、或ハ分娩後六十日ヲ經過セザルトキ、或ハ刑ノ執
行ニ依ッテ生命ヲ保ツ事ガ出來ナイコト云フ場合ニハ、自由刑
ノ執行ヲ停止スルコト云フ意味ニナルノデアリマス、即チ自
由刑ノ執行ト云フコトヲ爲ス精神、其精神ニ過ギテ、其標準
ヲ過重スル意味ノ時ニ於テハ、是ガ執行ヲ停止スル、斯ウ云
フ精神デハハ働クノデアリマス、故ニ七號ノ重大ナルト云
フ事由ヲ付ケマシタノハ總テヲ總括シテ茲ニ其意味ガ見エ
ルノデアリマス、前ノ方ニ列記シタノハ重大ナル場合ノ例
示デアリマス、故ニ七十歳以上デアレバ、如何ナル場合ニ停
止スルヤト云ヘバ、自由刑ノ執行ガ、此者ニ對シテ自由刑ノ
標準以上ニナル、特殊ノ影響ヲ與ヘルト云フ場合ニナリマ
スカ、即チ老衰ノ程度ガ甚シクナツテ居ルト云フ場合ニ起
ル問題デアリマス、デ標準ハ右申上ガタ標準デ停止スルノ
デアリ、然ラザレバ停止セズ、受胎後分娩後ト云フ問題ニナ
レバ、只今御説明ノ如ク、先ヅ斯ウナルデアアラウト思フノデ
アリマス、唯併シ其狀況ニ依リマシテ、分娩後ニ於テ回復ヲ
シテ、少シモ差支ナク仕事ヲシテ居ルト云フ者ヲ、強デ停止
シテ置カニヤナラスト云フ理由モナイノデアリマスガ、併
シ大體ハ是等ハ御説ノ如クニナラウト思ヒマス、ソレデ重
大ナル時ノ例示ハドウ云フ場合デアアルカト、斯ウ云フ點デ

アリマスガ、是ハ一號カラ六號デ大體盡キテ居リマス、重大ナル場合ト云フノヲ舉ゲタノハ、要スルニ根本問題トシテ、自由刑ノ標準以上過大ナル影響ヲ與ヘシメナイト云フ爲ニ、如何ナル場合ガ出テ來テモ停止スルト云フノデ舉ゲタノデ、此例トシテハ以上舉ゲタ例ガ即チ最モ適例ナノデ、尙ホドウ云フ事ガ起キテ來ルカ、種々ナル事情ガ起キヤウト思ヒマス、ソレカラ尙ホ根本ノ停止スル時デアリマス、是ハ執行ノ指揮ヲ致シマスノハ、言渡シテ裁判所ノ檢察官指揮ヲ致シマス、執行ニ着手致シマス前ニ停止スル時ニ於テハ、其檢察官ガアルノガ普通デアリマス、所ガ執行指揮ヲ致シマスト云フト、其處ノ所在ニ於テ刑ヲ執行スルニ止マラズシテ、場所ヲ異ニスル場合ガ澤山出來マス、例ヘバ十二年以上ト云フガ如キ事ニナレバ、遠イ處ニ於テ執行ヲシナケレバナリマセヌ事情ニナッテ居ルノデアリマス、ソコデ執行ヲ指揮シタル裁判所ト云フコトノミニ限ッテハ、甚ダ不便デアリマス、デアリマスカラ、現在地ヲ管轄スル檢察官ニ於テモ亦停止ガ出來ルト云フコトニ致シマシテ、其調和ト云フコトニナリマスレバ、判事ノ如ク獨立デアリマセヌデ、常ニ檢察一體ヲ活動致シマスカラ、其支障ハ起キテ來ナイト云フコトニナルノデアリマス

○黒住委員 ドウモ能ク分リマセヌガ、御説明自體ニ依ッテ明デアル如ク、有ニルモノガ第一カラ第六マデニ茲ニ列舉シテアル、其他重大ナル事出ト云フコトガ、現ニ宮古君ノ質問ニ對シテモ事例ヲ御舉ゲニナレヌ位、先ヅ想像ガ付カヌノデアリマス、健康ヲ害スル場合トカ、回復スベカラザル不利益ヲ生ズルトカ、大概書イテアル、一方ニ於テ刑ノ執行ヲ停止スルト云フコトハ任意ニナッテ居ル、サウシテ此ニ是ダケ書イテアル、外ニ其他重大ナル事由アリトスウ云フ規定ガアル爲ニ間々世間ヨリ誤解ヲ受ケテ、即チ檢察官若クハ當該監督官ニ對スル色々ノ非難ガ起キタリスル場合ハナカラウカト思フ、大概六迄デ私共ハ盡キテ居ルト思ヒマスガ、或ハ稀ニサウ云フ事ガ此他ニモアルカ知リマセヌガ、大概網羅シテアルト云フコトデアアル、以上ハ列舉主義ヲ取ッテ是レハ停止スベシト云フ風ニナサレタ方ガ私ガ心配スルヤウナ問題ガ起ラヌト云フ考ヲ有ッテ居リマスガ、如何デアリマセウ

○山岡政府委員 其點ハ一方カラ見マス、現行法ノ立場ハ先ヅ大體御説ノ通りデアリマシテ、極ク特別ナル場合ヲ四ツダケ列記致シテ居リマス、デ斯ウ云フヤウニナリマス、定ニ單純デ宜シイノデス、併シ此案ノ精神ハ、非常ニ擴張致シマシテ、現行法ヨリモ列記スル範圍ガ非常ニ廣イノデ、斯ウ廣クナッテ來マス、左ノ場合ニ於テハ停止スベシト、假ニ六號マデノ場合ヲ舉ゲマシテモ、不都合ナ場合ガ起

ル、例ヘバ五號ノ場合ニ、刑ノ執行ニ因ッテ回復スベカラザル不利益ヲ生ズルカドウカ、場合ニ依ルト兩者ヲ比較シテ考ヘテ見テ執行シナケレバナラス場合モ起ル、又七十歳以上ニ致シテモ其通りデ、若シ七十歳以上ハ停止スベシト云フコトニナレバ、如何ナル者デモ七十歳以上ニナレバ、刑罰ハ執行免除ト云フ結果ニナリマスカラ、矢張穩當ヲ缺キマス、ソコデ問題ハ其他ノ重大ナル事由アリヤ否ヤデアリマスガ、是ハ無イト言ヘマセヌ、例ヘバ回復スベカラザル不利益ヲ生ズル虞ハナイガ、如何ニモ其場合ニ於テ事情切迫シタル事ガアル、斯ウ云フ場合ニ於テハ、停止スルノガ相當デアリマス、例ヘバ外國ニ居ルトカ、或ハ其他外國ニ行クトカ、回復スベカラザル不利益デアルト云フ事ハ言ヘナイ、併シ其事情タルヤ、ドウモ執行スルヨリモ或間ダケ停止シテ置イタ方ガ宜イト云フ事情モナイトハ申サレマセヌ、サウ云フ次第デアリマスカラ、六號マデニ限リマシテモ、矢張「ベシ」ト云フ譯ニハ參リマセヌ、矢張認定ノ問題ニシナケレバナラスノデアリマスカラ、其他重大ナルト云フコトヲ掲ゲマシテ、前列記ノ程度デアラナラバ、矢張之ヲ停止スルト云フ方ガ至當ト考慮致シテ譯デアリマス

○鶴澤委員長 此第五百四十八條ニ付テ伺ッテ置キタイト思ヒマス、ハ、檢察官ノ執行ヲ指揮スルト云フ事ハ、一方カラ申シマス、起訴官ノ勸アルモノデアリマスカラ、少シク皮肉ノヤウナ感ヲ起スノデアリマスガ、何カ此點ニ以テハ監督局ナリ、司法省ノ他ノ局ニ於テ執行ニ對スル特別ノ監督ヲシテ、檢察官ヲ離シテ此法案ノ運用ヲスルヤウニ、此法案ニハ檢察官トナッテ居リマスガ、斯ノ如キ運用ノ當ルヤウナ事ヲ政府ニ於テ御考ニナッテ居ル事實ガアリマセウカ

○山岡政府委員 其點ニ付キマシテハ、執行問題ニ付テ特別ナル機關ヲシテ爲サシメルト云フコトハ、未ダ議ニ上、テ居リマセヌ、政府ニ於キマシテハ執行ノ行刑制度ト云フモノハ、兎ニ角既ニ合法思想ニ基イタ時代ニ於テ、其思想ヲ受ケテ制定セラレテ居リマスカラ、一般ニ於テ行刑制度ト云フモノハ相當研究ヲシナケレバナラス問題デアルト只今考ヘテ居ル譯デアリマス、自然一般ノ問題トシテ是等ノ事モ問題ノ一ツトナルト云フコトハ、申上ゲテモ宜シイノデアリマスガ、今日迄其點ヲ如何ニスルト云フ事ヲ研究シタコトハアリマセヌ

○林政府委員 一寸其點ニ付テ申上ゲテ置キマスガ、御承知ノ通り外國ニ於テモ、原告官デアアル檢察官執行ノ局ニ當ルト云フコトハ、不條理デアルト云フヤウナ大分學者ノ論モ一時アリマシタ、或ル國ニ於テハ、其説ニ動カサレテ、執行指揮ノ權ヲ檢察官ニ委ネナカッタ時モアルヤウデアリマス

ガ、併ナガラソレモ亦ヤメテ、檢察官執行指揮スルヤウニナッテ居ルヤウデアリマス、是ハ色々ソレニ付テ論究シタ書物モアルヤウデアリマスガ、要スルニ檢察官原告官デアアルカラ、執行ノ指揮ニ當ッテハ何カ不公平ナ事デモアルヤウニ感ズルノデアリマセウケレドモ、民事ノ原告トハ全然違フノデアリマシテ、全ク公益上ノ立場カラ、原告官タル地位ニ於テ訴訟行爲ヲスルニ過ギナイノデアリマスカラ、實際ノ事實カラ見マシテモ、檢察官執行指揮ノ權ヲ委ネテモ、不公平ナ處置ヲスルト云フ事モアリマセヌ、又判決通りノ執行ヲ指揮スルノデアリマスカラ、檢察官ノ方ハ裁量ノ餘地ト云フモノハ大體ニ於テ少イ、サウ云フ次第矢張大概ノ國デハ、檢察制度ノアル國デハ、執行ノ指揮權ト云フモノハ、檢察官ニ委シテアルト云フノガ多イヤウデアリマス、大體是デ差支ナイト心得テ居リマス

○鶴澤委員長 第五百四十九條——第五百五十條——第五百五十一條——第五百五十二條——第五百五十三條——第五百五十四條——第五百五十五條——第五百五十六條——第五百五十七條——此第五百五十六條ト五百五十七條ヲ併セテ一寸御尋ラ致シテ置キタウゴザイマスガ、個人ノ犯罪ニ對シテ言渡シマシタ罰金デアルトカ、或ハ追徴ヲ——特ニ財産隠匿等ノ爲ニ相續開始ヲシタ場合ハ別デアリマスガ、自然ニ相續開始ヲシテ、相續財産カラ之ヲ執行スルト云フ場合ト、法人犯罪ニ對シテ其法人ノ消滅シタ場合ト、法人ニ財産ガアレバ宜シウゴザイマスガ、多クハ何カノ工夫デ財産隠匿デモ圖ルト云フヤウナ事ガアルト、此兩方ニ權衡ノ取レナイヤウナ事ハアリマスマイカ

○山岡政府委員 其場合ニ付キマシテハ、相續開始ガ死亡以外デアリマスト云フト、五百五十六條ノ二項ニ於テ執行ヲシテ參リマス、ソレト同様ナ働キデ、五百五十七條ニナルト、合併ニ依ッテ消滅スレバ、其合併シタル後ノ法人ニ對シテ執行ヲスル、斯ウ云フ風ニ調子ヲ合セマシタ、合併シナイデ法人ガ消滅シテシマッタ場合ニ付キマシテハ、是ハ御承知ノ通り前ニ法人ニ對スル科刑ニ付テ其刑ヲ免ル爲ニ法人ヲ消滅セシメタル時ニ於テハ、五年以下ノ懲役ニ處スト云フ法律ヲ設ケマシテ、斯ノ如キ場合ヲ、其法律ニ依ッテ止メルヤウニ致シテ居リマス、デアリマスカラ、其場合ニ付テハ茲ニ之ヲ規定シナカッタノデアリマス、當局ノ見ル所ト致シマシテハ、個人ト法人ト是デ調和ガ取レテ居ル積リデアリマス

○鶴澤委員長 モウ一點承ッテ置キタイノデアリマスガ、此確定判決ニ依ル債務名義ニ依ッテ、何レ五百五十六條モ、五百五十七條モ執行サレルコトニナルト思ヒマスガ、是モ今度政府ノ提案ニナッテ居ル破産法ノ條項ト何等カノ影響ガ

アリ、且ツ之ヲ破産ノ或ル種類ノ權利トシテ請求スル途ヲ開イテアリマセウカ

○林政府委員 今破産法案ヲ手ニ持ッテ居リマセヌカラ、條文ヲ擧グルコトハ出来マセヌガ、ソレ等ノ點ハ破産法案ニ規定ガゴザイマシタヤウデアリマス

○鶴澤委員長 第五百五十八條

○宮古委員 第五百五十八條モ今迄ノ規定トハ變テ規定ノヤウデアリマスガ、上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス、檢事ノ上訴ナル時ハ勾留日數ノ全部、檢事ニ非サル者ノ上訴ナル時ハ勾留日數ノ二分ノ一ト云フ事ニナリテ居リマスガ、ソレニ付テ伺ヒタイと思ヒマス

○山岡政府委員 其點ニ付キマシテハ、只今御述ベニナリテ、通算主義ヲ採リテ居リマシタガ、刑法制定ノ際ニ於テ、甚ダ適當デナイト云フノデ、裁判所ノ裁量ニ依リマシテ、未決勾留ガ適當ニナリテ居ル場合ニ於テハ、之ヲ刑ニ算入シ、適當ナラザルトキニ於テハ、之ヲ算入セズト云フ裁判主義ニ變テ譯デアリマス、ソレデアリマスカラ、其趣旨ヲ貫徹致セバ、斯ノ如キ規定ト云フモノハ、寧ろ適當デナイトデアリマス、唯併シ一面カラ觀察シマスレバ、上訴後ニナリマシテ、被告ハ一審デ罪ニ居ルノニ、檢事ガ上訴ヲシタト云フトキニ於テハ、其未決ト云フモノハ、檢事ノ爲ニ已ムヲ得ズ拘禁サレタ、斯ウ云フコトニナリマスカラ、全部ヲ通算シ、然ラザル場合、自ラ求メテ未決ニ留マッタト云フトキニハ二分ノ一ヲ通算スル、即チ又此處ニ來テ法定主義ニナリテ澤デアリマス、理論ヲ採リ主義ヲ行フト云フト、ドウモ是ハ一貫シナイノデアリマスガ、實際上カラ見テ、斯ノ如クニ上訴以後ノ事ヲ此處ニ規定致シタノデアリマス

○宮古委員 現行刑法ニ依ルト、未決勾留ノ日數ハ其全部

又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得トナッテ居リマス、第一

審ノ判決ノ前ト云フコトニ限ッテハ居リマセヌカラ、上訴ノ場合ニ於テモ矢張通算スルコトガ出来ルコトノ規定ニナリテ居ルヤウニモ思ヒマス、サウシマス云フト、第一審ノ判決ノ前ノコトハ今迄ノ通り第一審判決ノ後ノ未決勾留ノ部分ニ付テハ、現行刑法ノ二十一條ヲ改正シテ趣意ニナリマセウカ

○山岡政府委員 働キノ上ニ於キマシテハ、現行刑法ハ上

訴申立後ノ未決勾留ニ付テハ働カナイ、斯ウ云フ事ニナル譯デ、法ヲ改正シタトハ言ヒマイト思フ、此所ニハ未決勾留ノ日數ハ斯ノ如クニ法定ノニナリマシタカラ、裁判ヲ以テ如何トモスルコトハ出来ナイコトニナリマス

○宮古委員 併シ現行刑法ハ上訴以後ノ分ニ對シテハ算入スルコトヲ得タ、其算入ノ仕方ハ何トモ制限ハシテ居リマセヌガ、五百五十八條ハ檢事ノ上訴デアレバ全部、或ハ其他ノ上訴デアレバ半分ト云フ風ニ制限ヲ設ケテアリマス所ニ依リマスレバ、詰リ現行刑法ニ一條ノ通りニハ是カラハ裁判ニ於テヤレナイト云フコトニナルと思ヒマス、サウスルトヤレナイト云フコトガ即チ一部ノ改正ニナリヤシマセヌカト思フガ、如何デスカ

○山岡政府委員 ソレハ見方ニ依ルノデアリマシテ、成程運用ノ範圍ト云フモノハ狹クッタト云フ事ハ、申ス迄モナイノデス

○鶴澤委員長 第五百五十九條——第五百六十條——第五百六十一條——第五百六十二條——第五百六十三條——第五百六十四條——第五百六十五條——第五百六十六條——第五百六十七條——第五百六十八條——第五百六十九條——第五百七十條

○宮古委員 一寸私訴全體ニ關シテ伺ヒタイと思ヒマス、何處ニドウ云フ規定ニナッテ居ルカ知リマセヌガ、時効ノ點ハ此私訴デハ公訴ト同ジ時効ト云フ事ニナッテ居ルノデアリマス、ドウデスカ

○山岡政府委員 其點ハ、公訴ト同一デアルト云フノハ、此法案デハヤメマシタ

○宮古委員 私訴ニ付テノ時効ハ別ニ無イ譯デスナ

○山岡政府委員 無イノデス

○宮古委員 ソウシマスルト云フト、斯ウ云フ場合ハドウナリマセウ、例ヘバ詐欺罪ニ對スル私訴ヲ起ス、公訴ノ方ノ詐欺罪デアルト、此法律案デハ七箇年ノ時効ニナッテ居ル、七箇年ノ時効ニ依ッテ消滅スルコトニナッテ居リマス、民法ノ方ノ不法行為デアルト云フコトナラバ、三年デ時効ニナル既ニ詐欺ノ行為ガアッタ後ニ、例ヘバ四年ナリ五年ナリ過ギテ公訴ガ起ッタ云フ場合ニハ、私訴ハ公訴ニ附帶シテ爲スコトガ出来ルコト云フコトデアレバ、則チ民法ノ方ノ三年ト云フ方トハ違フコトニナリマス、三年過ギテモ公訴ニ附帶スレバ私訴ノ提起ハ出来ル、同ジ損害賠償デアッテモ、民法ニ依ッテ損害賠償ハ出来ナイガ、刑事訴訟法ニ依ル公訴ニ附帶スル私訴ノ形式ヲ以テ損害賠償ノ請求ガ出来ルト云フ風ニ考ヘマスルガ、其點ハドウナリマスカ

○山岡政府委員 ソレハサウ云フ事ニナラナイノデアリマス、時効ノ關係ノ如キハ、之ハ元々債權デアリマス、債權ノ本質ニ戻ッテ總テ權利ノ發生消滅ヲ致ス譯デアリマス、刑事

訴訟法ノ方カラ其權利ノ發生消滅ハ見テ居リマセヌ

○宮古委員 マダ一寸サウ了解シ兼ねマスルガ、同ジ行為デアッテモ、民法デハ矢張不法行為ト云フコトガ出来、刑法デハ詐欺ト云フコトガ出来ル、サウデスカラシテ、民法ニ依ッテ不法行為ヲ原因トシテ訴ヲ起スト云フコトデアレバ、三年經タケレバ時効ニナラナイ、ソレガ偶々刑事ガ起ッテ其刑事ガ例ヘバ五年目ニ起ッタト云フヤウナ場合ニ、損害賠償ノ請求ヲシヤウト云フ場合ニハ、私訴ヲ以テスルコトハ出来ルノデアリマセウナ

○山岡政府委員 ソレハ出来マセヌ

○宮古委員 サウスルト其時効ノ詰リ私權ノ關係ニ付テハ、民法ニ依ル譯デアッテ、私訴トシテハ此場合ニハ請求ガ出来ナイ、民法ノ時効ノ濟ミマシタモノニ對シテハ、請求ハ出来ナイト云フ趣意ナンデスナ

○山岡政府委員 其點ハ少シ詳シク中上ゲテ置キマスガ、附帶シテ民事ノ訴ガ出来ルト云フコトヲ稱シテ私訴ト云フノデアル、訴訟手續上ニ於テハ、斯ノ如キ訴ガ出来ルト云フコトヲ認メタ、ダカラシテ公訴ノアル限りハ、即チ一審ノ辯論終結ニ至ル迄ハ、何時デモ出来ルノデアリマス、唯體權權、即チ請求權ニナリマスルト云フト、何時消滅スルヤト云フ事ハ刑事訴訟法ノ關係スル所デナイ、即チ民法ニ依ルノデアリマスカラ、附帶私訴ハ完全ニ提起出来ルノデスカ、時効ヲ過ギタ以上ハ、已ラ得ヌノデアリマス、私權ハ何處迄モ私權トシテ、民法ノ保護ヲ受ケルダケニ止マル、斯ウ云フ風ニ訴訟上ノ權利ト實體上ノ權利ト區別サレテ居ル、現行法ハ其區別ガ無イノデ、公訴ノ確定スル間ハ公訴時効ト同ジデアルト云フ、斯ウ云フ規定ヲ致シテ居ルガ、是ガ甚ダ時世ニ合ハス、斯様ナ立場カラ、此實體權ハ民法ニ從フト云フコトニナリ、ソコデ實際ノ論カラ參リマシテ、只今ノ御説ノヤウニ不都合ハナイと思ヒマス、即チ民法ノ七百二十四條ニ從ヒマシテ、不法行為ノ時カラ二十年ヲ經過スレバ消滅スルコト云フコトニナルノデアリマスカラ、是ガ刑法ノ時効ニ比較致シマスルト中、長イ、其事ヲ知ッテ時ニ於テハ三年間有效ト云フノデアリマスカラ、刑事ノ訴追ノ中ハ一審ノ辯論終結迄ニ於テハ必ズ證人トシテ調べラレテ居ルノデスカラ、被害者ガ知ラスト云フコトハナイ、知ッテ而シテ提起シナイナラバ、三年間ニ提起シナイナラバ、恐クハ刑事事件ハ濟ンデ仕舞フダラウト思フ、刑事事件ガ濟ンデカラ、ドウモ私訴ノ問題ガ起キテ来ナイノデス、然ルニ刑事事件ガ長引イタ場合ニ於テ打捨テ、置ケバ、其人ノ落度デアッテ、ソレハ止ムヲ得ヌと思ヒマス

○宮古委員 サウスルト私訴ヲ起シタ場合、例ヘバ民法ノ方ノ不法行為デアッテ場合ハ、私訴ト公訴ニ附帶シテ起スコ

トガ出来ルガ、併シ被告ノ方デソレガ民法ノ時効ニ係ッテ居ルト云フコトヲ申セバ、畢竟私訴ハ立タスト云フコトニナルト云フ御趣意デスカ

○山岡政府委員 左様デス

○鶴澤委員長 第五百七十一條——第五百七十二條——第五百七十三條——第五百七十四條——第五百七十五條——第五百七十六條——第五百七十七條

○宮古委員 是ハ裁判長ノ許可ヲ受ケルト云フ事デ、私訴ノ關係ニ於テ訴訟記録ノ閲覧應寫ニ付テモ、矢張許可ヲ受ケナケレバナラヌト云フ趣意デアリマセウカ、先達テノ滿鐵事件ニ付テ起リタルヤウナ記録ノ閲覧ニ付テ云フヤウナ事ハ、是ガ法律トナレバ、裁判長ノ許可ヲ受ケレバ閲覧應寫ガ出来ル、裁判長ノ許可ガナケレバ、私訴ノ代理人ハ閲覧應寫ガ出来ヌ、斯様ニ解スベキモノデアリマスカ

○山岡政府委員 御説ノ通りデアリマスカ

○宮古委員 此私訴ノ代理人若クハ私訴ノ本人ニ對シテ、裁判長ノ許可ガ必要ト云フコトニシテ趣意ハ、ドウ云フ所ニアルノデセウカ、刑事ノ方ノ辯護人ハ、イッデモ裁判長ノ許可ヲ受ケズシテ記録ノ閲覧應寫ハ出来ルヤウデスカ、證據物ノ方ハ許可ヲ受ケルヤウニ思ヒマスカ

○山岡政府委員 此私訴ハ附帶ノ問題デアリマシテ、公訴ノ方ノ進行ガ大切デアリマスカ、ソレ故ニ公訴ノ進行ヲ私訴ノ爲ニ妨ゲルコトハ許サヌデアリマスカ、ソレデアリマスカラ裁判長ノ許可ト云フコトダケハ必要デアリマスカ、而シテ是ハ法文ノ上トシテハ、只今申上ゲタルヤウナ理論カラ書カレタノデスカ、實際ニハ別段支障ハナイト思ヒマスカ

○鶴澤委員長 一寸五百七十七條ニ付テ伺ヒマスカ、本條ニ對シテモ矢張本案ノ第五十五條ノ適用ガアリマスカ

○山岡政府委員 第五十五條ハ、之ニ付テ適用ガアルト申シテ宜イノデスカ、所謂訴訟ニ關スル書類デアリマスカ、五十五條ニ關係ガ及ンデ居リマスカ

○鶴澤委員長 第五百七十八條——第五百七十九條

○宮古委員 一寸訴訟費用ニ付テ伺ヒマスカ、私訴ニ付テハ別段訴訟ニ付テ印紙ナドノ必要ハナイ、民事裁判所ノ方ヘ移サレタラバ、民事訴訟法ニ依リ、隨テ印紙ナドモ要ルト思ヒマスカ、現在ノ取扱振リヲ見マスト、私訴ニ對シテモ、或ル場合ノ、例ヘバ判決書ノ送達ヲシテ貰フ場合ナド、印紙ヲ貼テ居リマスカ、ソレハ私訴ニ付テハ印紙等ノ必要ガナイト云フコト少シ矛盾シテ居ルヤウニ思ヒマスカ、政府ノ御考ハ此點ハ如何デスカ

○山岡政府委員 此私訴ノ方ハ、裁判ヲスル際ニ便宜ノ爲メ附帶セシムルノデスカ、普通ノ民事裁判所ト變リハナイノデスカ、送達ト云フコトニ付テハ、矢張刑事ト云フ觀念ヲ

離レルノガ無論ト思ヒマスカ

○宮古委員 併シ同ジ刑事ノ繫屬中デアッテ、他ノモノニハ印紙等ノ必要ナクシテ、唯判決書ト送達ニ印紙ヲ要スルト云フコトハ、妙ニ思ヒマスカ

○山岡政府委員 是ハ刑事ノ訴訟ガ何時済ムカト云フ問題ニナリマスカ、裁判ヲ宣告スレバ、ソレデ本人ニ對スル言渡ガ済ンデシマウ、私訴ニ付テモ亦裁判ヲスレバ済ンデシマヒマスカ、矢張裁判言渡ト共ニ切レルト云フ見方ガ相當ト思ヒマスカ

○鶴澤委員長 第二章第一節第五百八十條——第五百八十一條——第五百八十二條——第五百八十三條——第五百八十四條——第五百八十五條

○宮古委員 「私訴ノ取調ハ公訴ノ審理ヲ終タル後之ヲ爲スヘシ」トナッテ居リマスカ、私訴ノ取調ノマダ始ラヌ前、公訴ノ審理中、例ヘバ證人調ベガアルト云フヤウナ場合ニ私訴ノ關係人ハ唯其所ニ付テ居ルト云フ事ダケデ、何等容喙モ出来ナイ、公訴ノ方ノ審理ノ済ム迄、見エマスカ、公訴ノヤウナモノデ、立會フ利益ガナイヤウニ見エマスカ、公訴ノ取調中ニ、證人ノ取調ガアッタラ、其證人ニ對スル訊問ノ請求ヲスルトカ、若クハ私訴ニ影響ヲ及ボスモノニ對シテ、何カ別段ノ證人ヲ要求スルト云フヤウナコトハ、一切許サヌ趣意デアリマセウカ、ドノ位ノ程度マデ私訴ノ關係人ガ公訴ニ關係スルト云フ意味デ成立テ居リマセウカ

○山岡政府委員 其點ハ此案ノ私訴ノ性質ヲ申上ゲレバ、理解ノ出来ル事ニナリマスカ、此案ニ於テハ、現行法ノ如ク私訴ヲ擴大シテ居リマスカ、現行法ニ於テハ、關係ノアル限リ、公訴ノ被告以外ノ者ニ對シテモ、私訴ノ效力ガ及ンデ參リマシタ、此案ニ於テハ五百六十九條ニ於テ「公訴ノ被告ハニ對シテ私訴ヲ提起スル事ヲ得」ト非常ニ限局サレテ居ル、而シテ五百七十二條ニ於テ「私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ」トアリマシテ、其事

實以外ニハ出ナイノデアリマスカ、ソレダカラ公訴ノ事實ガ確定サレサヘスレバ、ソレデ済ンデシマフノデアリマシテ、全ク公訴ト云フモノガ一先ツ事實ガ確定シタラバ、其確定シタ事實ヲ利用シテ、直ニ民事請求權ノ當否ヲ判斷スル、斯ノ如キ見解ノ上ニ立ッテ居リマスカラシテ、從ッテ此私訴ノ調ベト云フモノヲ、特ニ當事者ニ許スト云フヤウナ必要ハ無いノデアリマスカ、ダカラ五百八十五條ノ裁判長ガ必要ナリト思料スレバ、其調ベヲ致シマスカレドモ、此法ノ運用ト致シマシテハ、殆ド必要ハ無カラウト思ヒマスカ

○宮古委員 但書ノ方デ「裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得」トナッテ居リマスカ、是ハドンナ風ニヤルノデアリマセウカ、公訴審理中ノコトデ

アリマスカ、公訴ノ審理ヲ止メテ置イテ、私訴ノ取調ヲスルト云フ意味デスカ、或ハサウデナクシテ、公訴ノ審理中ニ、私訴ニ關スル取調ヲ致スト云フ意味デアリマセウカ、ソレカラ又先刻申シマシタ様ニ、證人調ベスルト云フ時ニ、私訴ノ關係人カラ矢張申告スルト云フコトガナケレバ、此五百八十八條ノ「公訴ニ付取調ヘタル證據ハ私訴ニ付取調ヘタルモノト看做ス」ト云フヤウナコトニナルニ付テ、甚ダ遺憾ノ點ガ出テ来ルデアラウト思ヒマスカ、見ス——確メテ置キタイト云フ點ガアッテモ、一向訊問ガ出来ヌト云フコトデアレバ、私訴ノ取調ニナッテカラ、更ニ又取調ベルト云フ必要ガ起ッテ来ルト云フコトニナリマスカ、全然公訴ノ審理中ハ、私訴ノ關係人ハ喙ヲ容レルコトハ出来ヌト云フ譯デアリマセウカ、是ハドウ云フコトニナルノデアリマセウカ、裁判長ノ職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得」トアリマシテ、矢張何カ裁判長ニ向テ私訴關係人ガ要求シテ、而シテ裁判長ノ職權ヲ以テ調ベヲシテ貰ヘバ出来ル、其他ハ出来ヌ、斯ウ云フノデアリマセウカ、モウ少シ説明ヲ願ヒタイト思ヒマスカ

○山岡政府委員 只今ノ御意見ノ末段ノ通り 全ク出来ナイト云フノデハナクテ、裁判長ニ要求シテ調ベテ貰フト云フコトハ、裁判長ノ職權デ、ソレハ毫モ差支ナイ、サウ云フ意味デアリマスカ

○宮古委員 サウスルトマア職權ノ應用ヲ私訴關係人ハ促スト云フノ過ギナイ、裁判長ガ職權ヲ以テヤッテ呉レナケレバ出来ヌ、ヤッテ呉レサヘスレバ、證人ニ對シテ訊問モ出来、又證人ノ申請ヲスルコトモ出来ル、其外ノ證據調ベノ請求モ出来ル、斯ウ云フ趣意デアリマセウカ

○山岡政府委員 法律上要求スルト云フ譯ニハ參ラヌト思ヒマスカ、唯促ガスト云フコトニナルノハ事實ノ問題デアル、關係人ノ權利トシテ認メルト云フコトハ出来ヌ、唯職權ヲ以テノミ出来ルノデアリマスカ、法律上之ヲ求ムルト云フコトニ於テハ、私訴ニハ出来ナイト思ヒマスカ

○宮古委員 「職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲ス事ヲ得」ト云フコトニ書イテアリマスカ、是ハ事實上關係人ガ促サナクテモ、勿論職權ヲ以テ出来ルノデアリマスカ、只今申シタ例ハ、私訴ニ關係スル公訴ノ點、詰リ公訴ノ判決ガ私訴ニ影響シマスカラソコデ公訴ノ判決ノ基礎トナルベキ證據ニ付テノ取調ヲスル際ニ私訴ノ關係人ハ矢張喙ヲ容レテ、サウシテ或ハ訊問ノ請求ヲスルトカ、或ハ證據調ベノ請求ヲスルトカ云フコトヲスル方ガ、宜クハナイカト云フコトヲ私ハ申スノデアリマスカ、此「職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得」ト云フヤウナ規定——左様ナ事モ裁判長ガヤッテ呉レバ出来ル、斯ウ云フ趣意デアリマセウカ

○山岡政府委員 只今ノ前段ノ御意見ノヤウナ風ニハ參リマセヌ、公訴ノ調ヲスル間ハ、私訴關係人ガ何等容喙スルコトハ出來ナイノデアリマス、唯裁判長ガ私訴ニ付テ取調ヲ命ジ、其取調ヲ爲ス場合ニナレバ、茲ニ切メテ私訴關係人ガ容喙スルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス

○宮古委員 マダ了解シマセヌガ、私訴ニ付テノ取調ヲスルト云フコトハドウ云フ事ヲ言フノデアリマセウカ、公訴ノ審理中ニ私訴ニ付テ取調ヲスルト云フコトハ——公訴ノ審理中ニ、私訴ニ影響スル所ノ色々ノ證據調ハ無論出來ナイ譯デアリマス、ソレデ公訴ノ審理ヲシテ居ル際ニ、何カ私訴ニ付テ取調ヲスルト云フコトハ、或局限サレタル事柄ヲ言フ譯デアリマセウガ、公訴ニハ關係ナイ、私訴ダケニ關係ノアルコトヲ取調ベルト云フ意味デアリマセウカドウ云フ意味デアリマセウカ

○山岡政府委員 是ハ文字ノ上カラ申シマスレバ「私訴ニ付テ取調ヲ爲スコトヲ得」ト云フノデアリマスカラ、五百八十六條ニ從テ「原告ハ請求原因タル事實ヲ陳述シ判決ヲ受クベキ事項ヲ申立ツベシ」此ノヤウナコトモ差支ナイ様ニ見ヘマスガ、サウ云フコトニハ考ヘテ居リマセヌ、唯必要ナ調ヲシタ方便宜デアルトスレバ、公訴ノ審理中デ尙ホ必要ナ或ル調ハ出來ルト考ヘテ居リマス、唯ソレダケノコトデアリマス

○宮古委員 マダ私ノ質問ニ對スル答辯ノ全部デアリマセヌガ、ドノ位ナ程度デアルカト云フコトデアリマス、サウスルト公訴ノ審理中ノ證人若クハ證據ノ申請ニ一切關係スルコトハ出來ナイト云フノデスカ

○山岡政府委員 サウデス

○林政府委員 私ハ今途中カラ承リマシタノデ、ドウ云フヤウナ御尋ニナッテ居タカ、或ハ誤解シテ居ルカモ知レマセヌガ、實際的ニ申シマス、犯罪事實ト共ニ被害者ノ主張スル所ノ被害ダケヲ調ベル方、非常ニ便利ナコトガアリマス、サウ云フ時ニ原告人ガ出來テ居レバ、便宜上ソレヲ調ベル、ソレカラ又同一ノ證人ニ付テ公訴事實ト私訴事實ト一過ニ調ベテシマヘバ、非常ニ都合デアルト云フコトガ起リマス、サウ云フ場合ニハ、公訴ノ方ハ公訴デ片付ケテ、ソレカラ私訴ニ入ルト云フコトニナリマス、一人ノ證人ヲ二度呼出スト云フコトニナリマス、カラ、サウ云フ場合ニハ、公訴ノ審理中デアレドモ、其證人ニ付テハ私訴ノ關係ヲ聽クト云フ、斯ウ云フヤウナ事方、實際上ノ必要カラ起リテ參リマス、サウ云フ所ヲ慮タノデアリマス、サウシマセスト、公訴ノ審理ト私訴ノ審理ガ混雜シテ、滅茶々ニナリ、總テノ點ニ於テ都合ナ結果ガ起リマスカラ、原則トシテハ是ハヤリマセヌ、唯斯ウ云フ實際ノ必要ガ生ジマス

カラ、斯ウ云フ規定ヲ設ケテ居ルコト、私ハ考ヘマス

○宮古委員 少シ分ラヌヤウニ思ヒマスガ、私ノ先刻御尋シマシタ公訴ノ審理中ニ、私訴ノ關係人ガ容喙ヲスルト云フコトモ、私訴ニ關係ノ無イ事デ、容喙ヲスルト云フ意味ハ無論ナイノデアリマス、私訴ニ關係スル事デ、公訴ノ判決ガ私訴ニ直接ニ影響ヲスル譯デアリマス、カラ、其公訴ノ取調中ノ私訴ニ關係スル事、或ハ訊問ヲ乞ヒ、或ハ證據調ノ請求ヲスルコトガ、出來ルカ出來ナイカト云フコトヲ伺フノデアリマス、例ヲ舉ゲテ申シマスレバ、證人調ヲ公訴ノ審理中ニヤッテ居ル、其證人調ノ影響スル所ガ、矢張私訴ニモ及ボコトニナル場合、サウ云フ場合ニ於テ證據調ノ要求ヲスルコトガ出來ルカ出來ナイカ、私訴ニ付テ取調ヲ爲スト云フヤウナコトヲ含ムカドウカト云フコトヲ伺フノデアリマス

○山岡政府委員 其點ハ前ニモ申上ゲタヤウニ、公訴ノ審理ヲシテ居ル間ニ、私訴關係者ガ容喙スルト云フコトハ出來ナイノデアアル、但シ其證人若クハ關係人ガ、此場合ニ於テ私訴ノ事ヲ聽イテ置ケバ適當デアル、斯ウ云フ事項ガ發生スレバ、裁判長ニ於テ職權ヲ以テ取調ヲスルノデアリマスガ、裁判長ニ向テ御調ヲ願ヒタイト云フコトヲ事實上申立テルノハ差支ナイト云フコトヲ、段々申シタノデアリマス、ソレ故ニ公訴審理中ニ、ソレハ私訴ニ必要デアルカラ御調ベテ願フト云フコトハ、法律上ノ請求權ハ無イ、斯ウ云フ意味デアリマス

○横山(金)委員 是ハ今伺フテ見マス、公訴ノ審理中ニ、私訴ノ關係者ガ裁判長ニ向ツテ、此場合ニ私訴ニ關係スル事柄ヲ調ベテ貰ヒタイト云フコトヲ、注意ヲ喚起スルコトハ禁ジタ意味デハナイト思ヒマスガ、隨テ一度裁判長ガ私訴ニ於テ取調ヲ致スト云フ職權行使方出來マシタ時ニハ、私訴ノ關係者ハ、當然ノ權利トシテ發言權ヲ持ツベキモノト理解シナケレバナラヌト思フ、ソレカラモウ一ツハ、此書キ方デハ「公訴ノ審理中ト雖モ職權ヲ以テ私訴ニ付テ取調ヲ爲スコトヲ得」トアルノデアリマス、一定ノ申立カラ始メテ、原因事實總テヲ聽クコトガ出來ルト理解シナケレバナラヌ、是モ即チ合法ノ處置ト謂ハナケレバナラヌ、其時分ニモ當然私訴關係者トシテ發言ノ權利ヲ持ツ、斯ウ理解シテ宜シイノデアリマス

○山岡政府委員 其點ハ先程述べタ通りデアリマシテ、公訴ノ審理ヲ爲シテ居ル時ト雖モ、職權ヲ以テ私訴ノ調ベガ出來マスカラ、私訴ニ付テ裁判ニ必要トスル程度ノ調ベヲスルト云フコトハ差支ナイノデアリマス、併シ私訴ニ廣ク調ベマスルコトハ考ヘテ居ナイノデアリマス

○横山(金)委員 サウスルト證人調ノ時トカ、鑑定ノ調ベトカ、若クハ被告人調ベノ際ナドニ、専ラ私訴ニ關係スル事

柄ヲ裁判長ガ調ベルト云フコトニナレバ、五百八十五條ノ「但シ裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以テ私訴ニ付テ取調ヲ爲スコトヲ得」トアルノデアリマス、其時ニ當テ私訴關係者ハ、其實質ノミデハイケナイカラ、進ンデ證人ヲ調ベテ貰ヒタイ、其他ノ證據調ヲシテ貰ヒタイト云フ時ニ、進ンデ其證據調ヲ申請シテモ、差支ナイト云フコトニ認メラレルノデアリマスガ……

○山岡政府委員 其點ハ職權ヲ以テ私訴ノ取調ヲ爲スト云フノデアリマス、新ラシイ證據申請ヲシテモ、ソレヲ許スト云フ譯ニハ參リマセヌ、或ル調ベガ始マツタ後ニ、其私訴當事者ノ側ノ意ニ滿ツルヤウニ問ヲ發スルコトハ出來マセウ

○横山(金)委員 左スレバ一定ノ申立カラ始メテ、五百八十六條ノ作用ガ起リマシタ時分ニハ總テノ證據調ヲスルモノト見ナケレバナラヌ

○山岡政府委員 其點ニナレバ、斯ウ云フコトニナラウト思フ、公訴審理中ト云フモノデハナク、寧ロ公訴ノ審理ヲ中止シテ外ニ出ルコトニナッテシマウト思フ、ケレドモソコノ公訴審理中ト云フノハ、狭イ意味ニ解釋スルノガ至當デアル、ソレ故ニ新シク證人ヲ私訴ニ付テ調ベ始メタカラト云フテ、更ニ之モ私訴關係ニ付テ必要デアルカラ、此次ノ公判ノ時ニ御呼出シテ願ヒタイト云フヤウナコトハイケナイト思フ

○横山(金)委員 併シ私ガ今申シタヤウニ解釋シナケレバ、理路ガ一貫シナイト思フ、隨テ何等カ此間ニ斟酌ヲ加ヘテ、法文ヲ御訂止ニナル必要ガアリハシナイカト思ヒマスガ、ドウデスカ

○山岡政府委員 其必要ハ認メナイト云フノガ至當デアリマス、ト申スノハ先程御居デニナツタカ如何デアリマス、カ知リマセヌガ、要スルニ私訴ト云フノハ非常ニ局限サレタモノデアリマシテ、公訴事實ニ於テ確定シタル事實ニ基イテ私訴ノ判決ヲスルノデアアルカラ、唯公訴事實デ足ラナイ點ダケハ、是ハ私訴當事者ニ關係ガアツテ、特別ニ調ベテ爲サナケレバナラヌノデアリマス、併ナガラ公訴ノ被告人ニ對シテノ私訴ハ出來ルノデアリマス、此案ノ立場ニ於テハ、現行法ト違ヒマシテ、只今御想像ニナルヤウニ廣イ調ベヲスルノデハナイノデアリマス

○宮古委員 理由書ヲ見マス、數額ノコトガ書イテアリマスガ、數額ノ事ヲ職權ヲ以テ調ベルト云フ便宜カラ、斯ウ云フ規定ヲ設ケラレタト云フ譯デアリマスガ、數額ノ點ノ如キハ、明ニ私訴ニ關係スルコトニナリマスガ、併ナガラ數額デナク、犯罪ノ事實ニ付テ矢張私訴ノ方ニ影響スルコトハ確ニアルノデアリマス、私訴ニ關係スルト云ヘバ、獨リ數

額ノ點許リデハナイト思ヒマス、ソレデアリマスカラ、公訴
審理中ニ證人調ヲシテ居ルト云フ場合ニ、裁判長ニ向テ私
訴關係人ガ私訴ニ影響スベキ犯罪事實等ニ付テノ審問ヲ
許スト云フコトハ、出來ル意味デアルカドウカ

○山岡政府委員 其點ハ先刻ヨリ述べマス、五百七十二條
ノ關係ニナリマスガ、私訴ノ事實ト云フモノハ公訴ノ事實
以上ニ出ナイノデアリマス、デアリマスカラ其調ベハ即
チ公訴ノ事實調ベアリマス、公訴ノ事實調ベシテ居ラ場合
ニ、私訴關係者ガ容喙スルコトハ出來ナイノデアリマス、ソ
レヲ裁判長ガ見ニ角此點ハ私訴ニ付テ調ベスルト云フコ
トヲ言テ調ベヲ始めレバ、ソレハ出來マセウケレドモ公訴
調中私訴關係人ガ調ベ求メルト云フコトハ、此規定デハ豫
想ガ出來ナイノデアリマス、ソレ故ニサウ云フコトヲ裁判
長ガ許スト、ソレハ誤リデアリマセウ

○宮古委員 サウ云フコトハ先ヅ出來ナイト云フ政府委員
ノ御意見デアリマスガ、尙更ラ私訴關係人ガ證據調ノ請求
ヲスルト云フコトハ、一切出來スト云フコトニ解釋スベキ
モノデアリマスガ

○山岡政府委員 ソレハ又問題ガ別ニナリマスガ、公訴ノ
審理中ニ於キマシテハ、公訴ノ證人トシテ喚ビ、其調ベヲ
爲スニ際シ、裁判長ノ意見ニ依テハ——其際ニ於テ事實上
調ベヲ求ムルコトガ出來ルニ過ギマセウ

○鶴澤委員 第五百八十六條——第五百八十七條
○横山(金)委員 私ハ之ニ關聯シテ第五百八十七條ニ
「辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムベキコトヲ命スヘシ」ト
ゴザイマス、ソレカラ第五百七十六條ニ「辯護人ハ私訴ニ付
被告人ノ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得」トアリマ
ス、五百七十八條ニ「私訴ノ判決ニ對スル再審ノ訴ハ民事訴
訟法ニ依リ原則決ラ爲シタル裁判所ノ民事部ニ之ヲ爲スヘ
シ」トアル、是デ懸聯シテ居ルト思ヒマスガ、ソレデ辯護人
ガ被告人ノ代理ニ於テ私訴行爲ヲシタ時分ニ、是ハ被告人
ニ異議ガアツタ時ニハ出來ナイト云フ趣旨ニナッテ居ルノデ
アリマスガ、當然解除ガ出來ルノデスカ

○林政府委員 五百八十七條ハ、法律ノ規定ニ依テ代理權
ヲ與ヘルノデアリマスカラ、被告人ハソレヲ否認スル譯ニ
ハイカスト思ヒマス

○鶴澤委員 第五百八十八條——第五百八十九條——第
五百九十條——第五百九十一條

○宮古委員 檢事ハ今迄立會シタモノヲ、立會ヲ要セズト
シマシタ趣旨ヲ御説明ヲ願ヒタイ

○林政府委員 現行法デハ檢事ノ立會ヲ必要トシテ居リマ
シタガ、併ナガラ公訴ノ取調ガ終ツタ後ニ、純粹ノ民事關係
デアル私訴ノ審理ニ付テ、檢事ハ必ズシモ立會ハナケレバ

ナラヌト云フ理由ハナイ、唯公益上必要ト認ムル場合ニ立
會ヲスレバ十分デアルト云フ處カラ、本案ノ如ク改正シマ
シタ

○鶴澤委員 第五百九十二條
○横山(金)委員 一寸五百九十一條デスガ、此場合ニ此私
訴ヲ却下スルコトニナッテ居リマスガ、矢張他ノ管轄ニ移送
スルト云フ方ガ、何カノ便宜ニナッテ宜イト思ヒマスガ、ド
ウ云フ譯デスウ云フコトニシマシタカ、ソレカラモウ一ツ
御尋ネシタイ、五百七十三條ニハ「私訴ニ關スル書類ニハ印
紙ヲ貼用スルコトヲ要セス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シ
タトキハ此限ニ在ラズ」其後ハ民事訴訟法ニ規定ニ依テ
印紙ヲ貼ルコトニ考ヘテ居リマスガ、此場合ニ於テ若シ上
訴ヲスルト云フ時ニハ、矢張始ノ私訴狀ニハ印紙ガ貼ラナ
クテモ、アルモノト見做シ、控訴上告ヲ爲スヤウニ、其時ニ
ハ全然貼ラナクテモ、有效ニ成立ッテ居ルモノニ付テ、上訴
ノ論ニハ印紙貼用ノ必要ハナイト、斯ウ了解シテ宜シウゴ
ザイマスガ

○林政府委員 第五百九十一條ノ場合ニ、私訴ヲ却下スベ
キカ、或ハ民事裁判所ニ移送スベキカト云フコトニ付テハ、
立案ノ際ニ色々論ガアツタノデアリマスガ、併ナガラ結局私
訴ヲ却下シテ、ソレヲ民事裁判所ニ更ニ訴ヘルカドウカト
云フコトハ、原告ノ意見ニ任カセル方ガ宜イダラウト云フ
趣意カラ、斯様ナ規定ニ致シマシタ、ソレカラ第二ノ御尋ニ
付テハ、既ニ適法ニ訴ガ提起ジテアルカラ、適ッテ印紙ヲ貼
ル必要ハナイト考ヘマス

○鶴澤委員 第五百九十一條デ却下サレマシタ時分ニハ、時
效中斷ノ關係上、非常ニ不都合ナ結果ヲ生ズルモノト思ヒ
マスガ、矢張是ハ此私訴ヲ提起シタラバ、此時效ヲ中斷セ
シムル意思ニ於テ却下デナク、其他ノ方法ヲ講ジタ方ガ宜
カラウト思ヒマスガ、其點ハ御考ニナラナクツノデスカ

○林政府委員 只今ノ御尋ノ點ハ、民法ノ規定ニ依リマシ
テ、時效中斷ノ效ガナイコトニナリマスノデ、ソレ宜シイカ
ドウカト云フコトハ、立案ノ際ニ議論ニ上リマシタ、併ナガ
ラ實際的ニ考ヘテ、特ニ此場合ニ私訴ノ却下ハ時效ノ關係
ニ於テ例外ニナル、斯ウ云フコトヲ定メヌデモ、差支ヘアル
マイト云フ處カラ、特ニ規定ヲ致シマセウ次第デアリマス

○宮古委員 只今ノ御説明ハ宜ク分リマセマスガ、時效ノ關
係ガ無イ譯ニ行キマスマイ、私訴ノ却下サルル時分ニハ
時效ニ罹ル、ソレカラ私訴ノ提起ノ時ニハ時效ニハ罹ラ
ナカク、斯ウ云フ場合ガ出テ來ヤウト思ヒマス、ソレカラ
時效ノコトニ付テハ、先刻山岡政府委員ノ御説明デ、民
法ノ方ノ規定ニアル、其民法ノ規定ニ依ッテ差支ヘアリマセ
ヌカ、民法ノ規定ニ依ッテ時效ニ罹カラヌ、丁度宜イ場合ニ、

私訴ヲ起シタ處ガ却下サル、場合ニ、全然權利ヲ失フヤウ
ナコトガアリハセヌカト思ヒマスガ、一寸伺ッテ置キマス

○林政府委員 卓上ノ論トシテハ、サウ云フコトニナリマ
スガ、併ナガラ實際考ヘマス、刑事事件ト云フモノハ、犯
罪ノ時カラ餘程速クナッテカラ起ルト云フコトハアリマセ
ス、而シテ一面ニ於テ私訴ノ方面ハ不法行爲ノ訴ヘテアル
カラ、時效期間モ長イ、サウ云フ關係ニナッテ居ルノデ、訴ヲ
却下サレタカラ、時效中斷ノ效ガナイ爲メニ困ルト云フ
ヤウナコトハ、實際的ノ見地カラ無イト思ヒマス、ソレ故ニ
斯ウ云フコトニシタノデアリマス

○鶴澤委員 第五百九十二條——第五百九十三條——第
五百九十四條——第五百九十五條——第三章上訴、第五百
九十六條——第五百九十七條——第五百九十八條——第
五百九十九條——第六百條——第六百一條——第六百二條——
第六百三條——第六百四條——第六百五條——第六
百六條——第六百七條——第六百八條——第六百九條——第
六百十條——第六百十一條——第六百十二條——第六百十
三條——第六百十四條——第六百十五條

○宮古委員 一寸此章ヲ終リマスカラ伺ヒマスガ、五百九
十四條ニ依リマス、一裁判所ハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ
判決ヲ爲スヘシト云フコトニナッテ居リマスガ、控訴院ニ
テ今迄私訴ノ判決ト同一デナイモノガアリマスガ、今度ハ
公訴モ同時デナクテハナラヌト云フコトヲ規定シテアリマ
スガ、同時デナケレバ判決ガ出來ナイト云フコトニナルノ
デアリマスガ

○林政府委員 御尋ノ通りデアリマス

○鶴澤委員 附則第六百十六條——第六百十七條——第
六百十八條——第六百十九條——第六百二十條——第六
百二十一條——第六百二十二條——第六百二十三條——第六
百二十四條——第六百二十五條——第六百二十六條——第
六百二十七條——第六百二十八條——第六百二十九條——第
六百三十條——第六百三十一條——第六百三十二條——
第六百三十三條——第六百三十四條——是デ終リマシタ
ガ、一寸此場合ニ御諮リシマスガ、是デ諸君ノ御精勵ニ依リ
マシテ、小委員會ハ濟ミマシタガ、政府ノ出シマシタ刑事訴
訟法理由書ト云フモノハ、大分能ク理由ヲ説明シテ居ル
ト思ヒマスガ、從來政府ノ出ス理由書ニハ斯ウアルガ、政府
ノ意見ハ是トハ違フト云フ事ガアリマス、例ヘバ商法改正
ノ時ニ、理由書ヲ以テ質問シテモ、理由書ニハサウアルガ、
政府ノ意見ハ違フト云フコトガアツタガ、政府ハ此理由書ニ
アルコトハ、大體ニ於テ政府ノ御意見デアルト了解シテ宜
ウゴザイマスガ

○林政府委員 全然政府ノ意見ト御覽下スッテ宜ウゴザイ

マス、唯文字ノ間違ガナイトモ限リマセヌ、サウ云フ事ハ改メナケレバナラヌガ、趣意ハ全然政府ガ責任ヲ以テ……
○鶴澤委員長 是ハ實際ノ一部分ノ參考ニシタモノト見テ差支ヘアリマセヌカ——ソレデハサウ云フ事ニ致シマス

○横山(勝)委員 昨日ノ議リヲ一寸質問致シマスガ、ソレハ三百六十二條ノ「詰リ」有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルベキ事實及證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ、法令ノ適用ヲ示スヘシ」現行法ノ二百三條ニ關スル點デアリマス、此點ニ關スル昨日ノ政府委員ノ答辯デハ現行法ノ二百三條ノ法令ノ理由ヲ付スベシト云フ理由ト云フ字ヲ削ツタケレドモ、趣旨ニ違ヒハナイ、併ナガラ第二項モ且第一項ノ規定ニ依ッテ、從來ノ判決ヲ全部舉示セシメル事ガ出來ル、其問題ノ要點ハ御記憶ノ通り、徒ラニ證據ヲ澤山羅列シテ數百枚ノ判決書ヲ作ッテ、サウシテ以上ノ證據ニ依リ前記ノ事實ヲ認定ス、以上ノ證據ヲ綜合査察シテ之ヲ認定ス、若クハ右ノ證據ニ依ッテ之ヲ認定ス、斯ウ云フ事ニナッテ居リマス、今此處ニ澤山例ヲ持ッテ來マシタガ、其例ハ今申上ゲル通りニナッテ居リマス、又少シ形式ノ變テ部分ハ、事實ノ認定ヲ書イテ、其次ニ右ノ事實ハ左ノ證據ヲ綜合シテ之ヲ認定スト云フ事モアリマスカラ、要スルニ文章ノ書方一ツデアリマシテ、形式ニ於テハ同一デアリマス、ソコデ二百六十三條ノ規定ト對照シマシテ、二百六十三條ノ區裁判所ニ於テ輕微ナル事件ノ裁判ヲシタ時ハ、證據ノ理由サヘアレバ宜イ、誰々ノ證人調書、誰々ノ參考人調書、所ガ三百六十二條ノ方ハ證據ノ理由ト云フコトハ、理由ヲ舉ゲルコトヲ要スルト云フ其理由ハ、證據ノ内容ヲ書クノデアルカドウカ、斯ウ云フ問題ニ觸レテ質問ヲシマシタ、ソレデ私ノ要求シマシタ趣旨ハ、果シテ現行ノ刑事訴訟法ヲ斯ノ如ク改正シテ、サウシテ將來刑事裁判所ノ判決、ガ改正サレルデアラウト云フナラ、ドウ云フ形式ニナルカ、澤山例ヲ持ッテ來テ居リマスカラ、此判決文ニ基キテドウ云フ具合ニ御改正ニナルカヲ御示シテ願ヒマス

○山岡政府委員 昨日述べマシテヤウニ、罪トナルベキ事實ト證據ヲ連絡セシメル、其経路ヲ示スト云フノガ此案ノ精神デアッテ、斯ウ云フ風ニシマシタ、ソコデ御示シマシタ此判決ハ、殺人教唆事件ノ方カラ申シマス、殺人ノ教唆事件ニ付テ、被告人ハ其殺人ヲ教唆シタ、斯ウ云フ事實ガ前段ニ頃ハレテ居リマス、此事實ニ對シテ、被告人ガ何レノ場所ニ於テ殺人ヲ教唆シタ事實アリヤ、其事實ニ付テハ、此證人ガ斯々ノ陳述モアル、此證人ノ陳述モソレト同様デアアル、又其他誰々ノ證言ニ依ッテ此事實ヲ認メルノデアル、而シテ教唆事實ガ明カニナレバ、其教唆ニ基テ人ヲ殺害スルト云フ事實ガ末段ニ頃ハレナケレバナラヌノデアリマス、其事

實ニ對シテ、更ニ此殺害ノ事實ハ、誰々ノ證言ハ如何ナルモノガアル、是ニ依ッテ之ヲ認メルト云フ風ニ舉示スルノデアリマス、即チ事實ト證據ヲ連絡ヲ示シテ判決ヲスルノデアリマス、ガカラシテ必ズ内容ヲ一々示サナケレバナラヌト云フ筋合ノモノデハナイ、其判決ニ依ッテ連絡ガ明カニナレバ足ルノデアリマス、併ナガラ或度合迄ドウ云フ風ニ陳述シテ居ルト云フコトハ言ハナケレバ分ラナイ場合ガアリマスレバ、其時ニ之ヲ、示シテ置く、言ハナイデモ、誰々ノ證言ハ矢張其供述ニ同ジト云フ風デアレバ、サウ云フ風ニシテ置ケバ宜イ、他ノ事件ハ同ジ事件デアリマスガ、是ハ選舉違反デアリマスガ、是ニ付テ證據ヲ列ベテ然ル後ニ綜合シテ之ヲ認定スト云フコトガアリマスガ、綜合ト云フコトハ、ドウ書イテモ同ジ意味ニナルノデアリマス、斯ウ云フ風ニ頭ニ綜合シテト云フコトハ、内容ヲ列ベルノガ本案ノ精神デアリマセヌ

○横山(勝)委員 ドウモハッキリシマセヌガ、斯ウ云フ風ニ取ッテ見マス、只今山岡君ノ御話ノ事ハ、斯ウ云フ風ニ解釋シテ宜ウゴザイマスガ、例ヘバ此處ニ刀ヲ以テ人ヲ斬ツタ事案ガアリ、サウスルト即チ兇器ヲ用テ人ノ生命ヲ害シタ、斯ウ云フ事案ガアル、其兇器ヲ用テ人ノ生命ヲ害シタ、證人並ニ彼ノ供述ニ依リ、尙ホ此證據及ビ參考人ノ供述ニ依リ、ソレカラ死シタル事實ニ付テハ醫師ノ鑑定書ニ依ッテ、此證據ニ依ッテ之ヲ認定スル、斯ウ云フ具合ニ犯罪事實ノ中デ構成要素トナルベキ個々ノ事實ヲ抽出シテ、銘々證據ヲ當嵌メル、斯ウ解釋シテ宜ウゴザイマスカ

○林政府委員 二百六十二條ノ趣意ハ、山岡君カラモ段々説明セラレタル通り、認定シタ事實ト、之ヲ認定スルニ至ッタ證據トノ連絡關係ヲ判決ニ明ニシテ、其判決ヲ讀ム者ニ如何ナル證據ニ依ッテ此事實ヲ認定シカト云フコトヲ理解セシムルコトカ本條ノ目的デアル、ソレガ簡單ナル事件ノ場合ニ概括的ノ説明ヲシテ理解ノ出來ル場合ニハ、必ズシモ個々ノ事實ヲ證據ヲ舉ゲテドウスル必要ハナイガ、複雑シタ事件ニハ、認定シタ事實ト、之ヲ認定スルニ至ッタ證據關係ヲ讀ム者ニ理解セシムル程度ニ書カネバナラヌ要スルニ各個ノ事件ニ付テ、證據ト事實トノ連絡關係ヲ明ニスル必要ガアル、ソレガ複雑シタ事件デアルト、證據ガ唯雜然ト其内容ガ羅列シテアル許リデ、讀ンデモ一向分ラヌト云フコトガ往々アリマス、サウ云フノハ本條ニ反スルモノデアルト考ヘマス

○横山(勝)委員 サウスルト今宮本千代吉ノ阿部公使殺害ノ事件デアリマスガ、ソコニ澤山ノ證據ガ列ンデ居リマス、林君ガ仰シタル通り、實ニ雜然トシテ列ンデ居ル、其聯絡關係ヲ綜合考察シタ判事ノ意見、判事ガ何處ノ事實ヲ綜

合考察シタノカ、民間ノ者ニハ容易ニ分リマセヌ、ソレガ而モ大審院ヲ無事通過シテ居リマス、サウスルト此判決ヲ諸君ノ前ニ持ッテ行クナラバ、判決ヲドウ爲カイマスカ

○林政府委員 宮本千代吉ノ判決例ニ關シテ、私ガ判斷スルコトハ出來マセヌガ、只今簡單ナル窃盜事件デ何月何日ニ何處ニ這入ッテ金ヲ百圓盜シタト云フ事實ヲ認定シマスノ、右ノ事實ハ左ノ證據ニ依リテ認定ス、一被告人ノ自白、證人何某ノ右被害事實ニ相當スル證言、斯ウ云フ風ニ書イタトシマスレバ、斯ノ如ク簡單ナル窃盜事實ナラバ、此ノ證據ノ説明ニ依ッテ誰モ理解スルコトガ出ル、ソレ故ニ證據ヲ列舉シタダケデ絕對ニイカヌト斷言スル譯ニイカヌ、要スルニ斯ノ如キ場合ニ、人ガ見テ分ル程度ニ説明シナケレバ、此法文ニ反スルコトニナル

○横山(勝)委員 ソレハソレデ宜イトシテ、三百六十二條ノ場合ヲ假リニ其點ニ當嵌ルト、今申上ゲタヤウニ、誰々ノ證言ニ依ッテ之ヲ認メルトスレバ宜イトデアリマスカ

○林政府委員 サウ云フコトニナリト思ヒマス

○横山(勝)委員 三百六十二條ノ方ノ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ説明スヘシト云フノハ、現行法ノ下ニ於テハ證據ノ内容ヲ書ケバ宜イノダト云フコトニ理解サレテ居ルヤウデアリマスガ、本案モ矢張其意味デアリマスカ

○林政府委員 現行法ノ適用ニ付テ今ノヤリ方ガ宜イカドウカト云フ事ハ、私自身トシテハ大ニ疑フ持ッテ居ルノデアリマスガ、本案ニ付テハ、種々先程カラ申ス如ク、只證據ノ内容ガ判決ニ現スガ宜イト云フノデナリ、證據ト犯罪ノ事實ト聯絡ガ決テ、其認定ノ趣意ガ分ル場合ハ、ソレデ宜ウゴザイマスガ、内容ヲ只舉ゲタダケデ、證據ト犯罪ノ事實ト聯絡ガ分ラヌ場合ニハ、ソレデハ足リナイ

○横山(勝)委員 シチ諄イヤウデスガ、昨日山岡政府委員ノ御話デハ、現行法ノ第二百三條ノ一項ノ末段ニ在ル法文ノ理由ヲ省イタケレドモ、ソレハ文字ヲ省イタダケデ、本案ノ三百六十二條ノ第一項ト、法律ノ精神ニ於テ毫モ差ハナイト言ハレタガ、ソレト林政府委員ノ御意見モ、其通り聽イテ宜イトデアリマスカ

○林政府委員 私ハ今證據ノ問題ト思ッテ御答シタノデアリマスガ、法令ノ適用云々ノ解釋問題トモテハ、山岡政府委員ノ説明サレタ通りデアリマス

○横山(勝)委員 二百六十二條ノ第一項ノ全部ニ付テ御尋シマスガ、是ハ現行法ト異動ガアルカドウカト云フコトヲ伺ヒマス

○林政府委員 現行法ト異動ガアルカドウカト云フコトハ、現行法ノ解釋ハ人ニ依ッテ變ヘテ居ルノデアリマス、現行法ノ解釋如何ニ依ッテ、或ハ本案ト同ジデアリ、或ハ違フ

ト云フコトニナリマス、是ハ容易ニ言フコトハ困難デア
ト思フ、要スルニ本案ノ趣意ハ先程説明シタ通りデアリマ
ス

○原委員 此刑事訴訟法ハ全部逐條審議ヲ終リマシタノ
デ、甚ダ満足ニ存ジマスルガ、最後ニ本案ノ第一篇ノ捜査
ノ所デ、私ハ質問ヲ提出スル機會ヲ得ナカッタノデアリマス
ガ、一寸此捜査ノ機關ノコトニ付テ一寸御尋ネ致シテ置キ
タイト思フノデアリマス、ソレハ色々捜査ノ點ニ付テ各委
員ノ希望モアレバ、質問モアツクノデ、隨テ修正ノ箇所ガ多
アルト思フノデアリマスガ、本案ノ捜査ノ機關ニ任ズル檢
事ノ其機關、即チ警察官又ソレノ機關ニ任ズル巡査兵等ノ
如キ、是ハ現行法ト稍、異ル所ハ無イノデアリマス、現在
ノ刑事訴訟法ニ於テモ、此點ニ付テハ色々其實際捜査ノ任
ニ當ル檢事ハ、餘程苦痛ヲ感ジタ點デアリヤウニ心得テ居
リマシタガ、ソレハ警察官ノ身分關係ガ、全ク内務系統ニ屬
シテ居ル、司法警察官ト云フコトデ、檢事ノ指揮内ニ屬シテ
居ル關係カラサウ云フコトニナッタロウト思フノデアリマ
スガ、此刑事訴訟法ノ改正ト同時ニ、實際言ハ、サウ云フ
檢事ノ手足ニナッテ働クベキ機關、即チ純然タル司法警察官
——專門ノ司法警察官、例ヘバ佛蘭西ニ行ハル、ヤウナ移
動警察ト云フヤウナ專屬司法警察官ノ機關ヲ設ケタナラ
バ、警察事務ト云フモノハ、餘程成績ヲ現ハスコト思フノ
デアリマスガ、是ハ私共多年サウ考ヘテ居ルノニ拘ラズ、現
在ノ刑事訴訟法ヲ改正スルニ當ッテ、サウ云フ特別ノ機關
ヲ御考ヘニナラナカッタヤウデアリマスガ、之ニ付テハ多分
司法當局ニ於テモ御考ヘニナッテ居ル事ト思フノデアリマ
スガ、何カサウ云フ事ニ付テ檢事ノ手足ニナルベキ專屬司法
警察官ニ付テ、何カ御考ガ——御計畫等ガアルデアリマ
セウカ、ドウデゴザイマセウカ、ソレハ後ニ檢事ノ捜査關係
ノ法條ニ付テ、色々修正意見モ出ルコト、思ヒマス、ソレ
豫メ其點ヲ伺ッテ置キタイ、即チ檢事ノ仕事ハ隨分重荷ヲ背
負ッテ居ルノデアリマス、其重荷ヲ分擔スベキ機關ニ付テ、
何カ御考ガ御計畫デモアリマセウカドウデセウカ、其點ヲ
伺ッテ置キタイ

○林政府委員 其點ハ前ニ他ノ方ノ御尋ニ對シテ御答ラシ
タ通り司法當局ニ於テモ、前カラ其點ニ付テ色々考慮ヲ致
シテ居リマスガ、併ナガラ色々事情ノ爲ニ、本案實施ノ際
ニ直ニ斯ノ如キ機關ヲ設ケルト云フ事ニ參リマセズ、併ナ
ガラ二百五十條ニ、勅令ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコト
ヲ得ト云フ明文ガアリマシテ、是ハ今御尋ノヤウナ場合ノ
ミヲ見タノデアリマセズガ、御尋ノヤウナ場合モ考慮セラ
レテ、此條文ヲ設ケラレタ次第デアリマス、適當ナル時期ニ
諸般ノ關係ガ許スナラバ、サウ云フヤウナコトガ或ハ實現

サレルカ知レヌト考ヘテ居リマス

○鵜澤委員長 ソレデハ是デ小委員會ノ擔任致シマシタ任
務ハ終了致シマシタモノト思ヒマスガ、此小委員會ノ會議ニ於
キマシテ現ハレマシタ大要ハ、速記録ニモ載ッテ居リマスガ、
尙明日午前十時カラ特別委員會全體ノ會ヲ開キマシテ、大體
ノ經過ヲ報告ヲ致シタイト思ヒマス、ソレデ此改正案ニ對
スル修正等ガアレバ、小委員會ノ質問審査ノ結果ニ基キマシ
テ、其特別委員會カラ多少提案サレルコトデアラウト思ヒ
マスガ左様ニ處置シテ差支アリマセヌカ

○富古委員 一寸伺ヒマスガ、修正說モ大分アルヤウデス
ガ、修正ナゾト云フモノハ小委員會デアル方ガ便利デハナ
イカト思ヒマスガ、ソレハ委員長ノ御意見ハドチラデスカ、
小委員會デヤライナイデ、普通ノ委員會デヤルト云フ御意見
デスカ

○鵜澤委員長 是ハドチラガ都合ガ宜イカ、修正ノ點ニマ
デ小委員會ニ委託サレタカドウカラ、小委員決スル譯ニ
ハ行キマス、マイト思ヒマス

○富古委員 他ノ委員會デハ、多ク小委員會ノ方デ意見ヲ
定メテ、ソレヲ委員會ニ報告シテ、ソレヲ承認スルカシナ
イカ云フヤウニシテ居ルヤウデアリマス、今迄モサウ云
フヤウナ例デゴザイマスガ……

○鵜澤委員長 其例ガ多イヤウデスカ、本案ニ付テハドツチ
ガ宜シウゴザイマスガ、是ハ私ハ大體ノ質問ヲ全部ノ委員
會デシテ、ソレカラ尙逐條ニ互ル質問ハ、到底此全部ノ委
員會デハ出來ナイコトデアリマス、小委員ニ付託シテ
逐條審議ヲ濟マスト云フコトニナッテ居ル、ソコデ小委員
ノ方デハ、是ダケノ修正ヲ相當ナリト認メルト云フコトデ
審査シテ、報告スル方ガ適當カモ知レマセヌガ、其修正ノ
點マデ議スル方ガ適當デアルカドウカト云フコトハ、是ハ
小委員ダケデ考ヘテ、ドンナモノデアリマセウ

○横山(勝)委員 ソレハ小委員會ニ於テ修正ノ案ヲ出スト
云フコト迄ノ委託ハナカッタヤウデアリマス、ケレドモ、併ナ
ガラ小委員ニ於テ其案ヲ作ラナケレバ、他ノ委員諸君ハ質
問ヲ聽イテモ居ラレナイシ、質問シナイノデアルカラ、案ノ
出シヤウガアルマイト思フ、ソコデ委託ノ趣旨ニ反スル譯
デハアリマセヌカラ、是レノ草案ガ出來テ居ルト云フ
コトヲ吾々小委員會ノ者ガ申出タ方ガ宜カラウト思ヒマ
ス、大體ニ於テハ一致スル點ガ多イノデアリマス、サウシテ
小委員會ノ諸君ノ中デ纏ラス修正ガアラト思ヒマスカラ、
其分ハ又別ニ委員ガ個々ノ資格ニ於テ、之ヲ提案スルト云
フコトニ致シマスレバ、既ニ非公式ニ諸君カラ見セラレテ
居リマス修正案ノ如キハ、大體吾々異存ガナイノデアリマ
スカラ、其方ガ都合デヤナイカト思ヒマス

○鵜澤委員長 審議上其方ガ便宜デアレバ、サウ云フ扱
シテモ差支ナイト思ヒマス、サウナレバ明日ノ午前中モウ
一同小委員會ヲ開キマシテ、ソコデ小委員會ノ修正條項ヲ
極メテ、午後ニ何レ又特別委員會ノ全部ノ會ガ開カレルコト
ト思ヒマス、其方ニ報告スルコトニシテハ如何デスカ

○富古委員 我ハ必シモ小委員會決定スルコトヲ望ムト
云フノデアリマセヌ、今迄實例ハソナハ風ニナッテ居ルカ
ラ、ドチデモ差支アリマセヌガ、今委員長ノ御意見ノヤウニ
ナルト、小委員會ノ意見ダケハ明日ノ午後中ニ決定シテシ
マハナケレバナラヌト云フコトニナリマス、サウ云フコト
デアルト、モウ少し能ク考慮シテ決定シテカラノ方ガ能ク
アリマセヌカ、サウ云フ事ナレバ、矢張普通ノ委員會デ決定
スルダケデ宜イト思フ、唯審議ダケガ委任サレテ居ッテ、決
定迄ノ委任デナイト云フコトデアレバ……

○鵜澤委員長 ソレハ無論サウデス、ケレドモ其案ヲ特別
委員會ノ全體ノ會ニ小委員會ノ決メタ案ヲ報告スルダケノ
事デス——ソレデハ是デ今日ノ案ニ對スル質問全部終了致
シマシタカラ、今日ノ委員會ハ是デ閉ケマス、ソレカラ明日
ノ會合ニ付キマシテハ、公報ニ依テ御通知ヲ致シマス
午後五時四十一分散會

大正十一年三月十五日印刷

大正十一年三月十六日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局